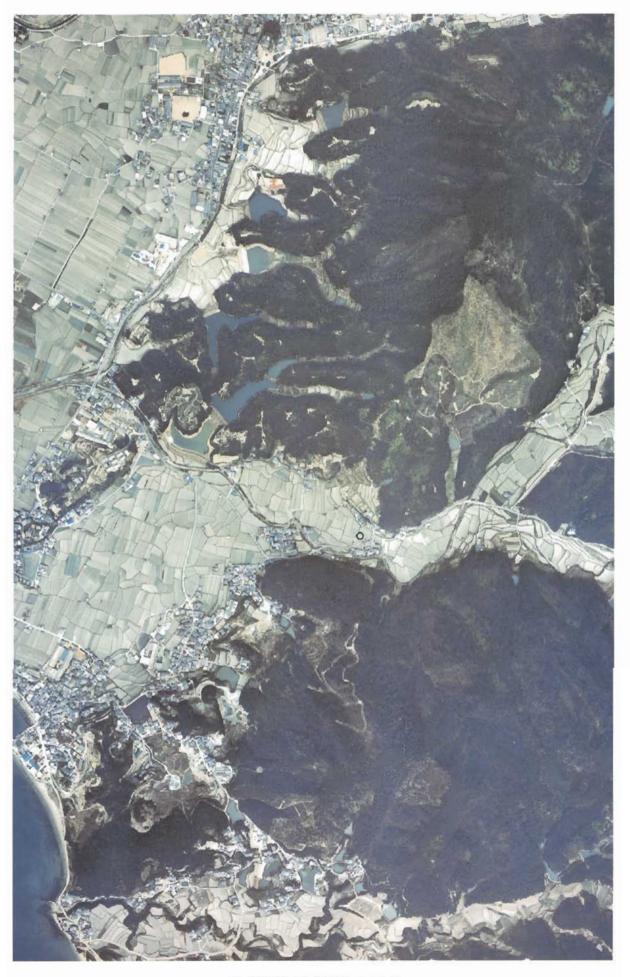
三原郡南淡町

北 田 遺 跡

- 主要地方道洲本南淡線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -

2003年3月

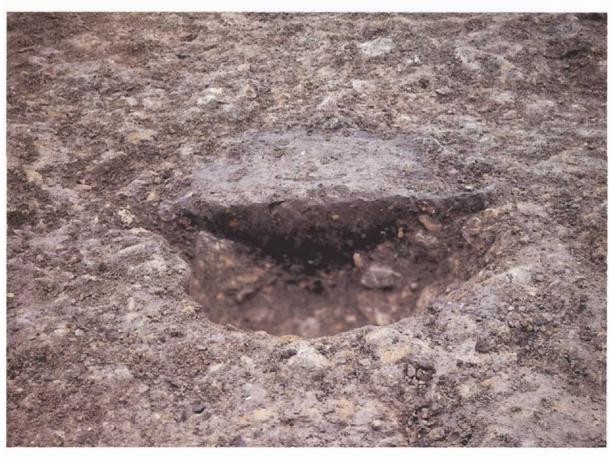
兵庫県教育委員会



調査地及び周辺航空写真



竪穴住居跡(SH01)全景(南西から)



竪穴住居跡(SH01)中央土坑(北から)

例 言

- 1. 本書は、兵庫県洲本南淡線道路改良事業に先立ち、洲本土木事務所の委託を受けて、兵庫県教育委 員会が平成6年度に実施した北田遺跡(三原郡南淡町阿万東町所在)の発掘調査報告書である。
- 2. 本書の執筆・編集は、島田留里の協力を得て、大平 茂が行った。
- 3. 遺構実測は、岡 昌秀・服部 寛が行い、遺構写真は岡・服部が撮影した。遺物実測、遺構トレース・遺物トレースは島田留里が行った。遺物写真の撮影は除イーストマンに委託した。
- 4. 本書に使用した座標値は、平成14年4月1日の測量法改正に伴い、新たな世界測地系に基づく平面 直角座標第V系の数値に補正している。また、方位は座標北であり、レベルは東京湾平均海水準(T. P)である。
- 5. 遺物の記載番号は、本文・挿図・図版と同一番号にしている。
- 6. サヌカイト製造物の原材産地分析にあたっては遺物分析研究所に委託し、京都大学原子炉実験所の 薬科哲男氏の玉稿を第4章として掲載した。
- 7. また、北田遺跡は平安時代末から室町時代を中心とする遺跡であり、局地的に弥生時代等の遺跡があることがは場整備事業に伴う発掘調査で明らかにされた。そこで、この概要原稿を三原郡広域行政事務組合教育委員会に依頼し、定松佳重さんに執筆していただいたものを第5章第2節として掲載した
- 8. 本報告にかかる出土遺物及び写真関係等の資料は、兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所と兵庫 県教育委員会魚住分館にて保管している。
- 9. 最後に、発掘調査および報告書作成にあたっては、洲本土木事務所、三原郡広域行政事務組合教育 委員会、南淡町、淡路考古学研究会及び地元阿万の方々にご協力を頂いた。記して深く感謝するもの である

本 文 目 次

第1章 はじめに	
第1節 調査に至る経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第2節 調査概要とその組織体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
1. 確認調査	2
2. 本発掘調査	4
3. 整理調査	4
第2章 遺跡をとりまく環境	
第1節 地理的環境・・・・・・	7
第2節 歷史的環境	10
第3章 調査の記録	
第1節 遺跡の立地と基本堆積土層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13
第2節 検出遺構と遺物出土状況	14
第3節 出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	16
第 4 章 自然科学的調査	21
- 北田遺跡出土サヌカイト製遺物の原材産地分析-	
第5章 まとめ	
第1節 弥生遺跡の年代と性格及びその位置づけ	21
第2節 ほ場整備事業に伴う北田遺跡の発掘調査概要	
70 4 則 は物証刑尹末に計力心田退跡の光指剛証例女	33

挿 図 目 次

WWW.Combine		
第1図	調査地位置図	1
第2図	第1次確認及び第2次確認調査区設定図	3
第3図	本調査区設定図	5
第4図	発掘作業風景写真	6
第5図	兵庫県の地質区分と地質形成史及び地質概要図	8
第6図	淡路島南部地域埋積切峰面図·同水系図·····	9
第7図	北田遺跡周辺の遺跡分布地図及び地名表	12
第8図	調査区全体図 (遺構配置図) 及び土層断面図	13
第9図	竪穴住居跡SH01平面図・断面図及び柱穴深度図	15
第10図	竪穴住居跡SH01出土土器・包含層出土土器	17
第11図	竪穴住居跡SH01出土石器	19
第12図	包含層出土石器	20
第13図	サヌカイト及びサヌカイト様岩石原産地	23
第14図	貨泉	33
第15図	調查区設定図	35
第16図	A地区遺構平面図	36
第17図	D地区遺構平面図······	36
第18図	(上) I地区第1遺構面平面図 (下) I地区第2遺構面平面図 ·····	36
第19図	J 地区遺構平面図	37
第20図	C 地区出土土器	38
第21図	I 地区出土土器·····	38
第22図	J 地区出土土器······	38
	+ H V.	
	表 目 次	
14-1150568	南淡町気象観測データ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第2表	石器計測表	18
第3表-1		24
-2	各サヌカイト (安山岩) の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値	25
-3	原石産地不明の組成の似た遺物で作られた遺物群の元素比の平均値と標準偏差値・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	26
-4	原石産地不明の組成の似た遺物で作られた遺物群の元素比の平均値と標準偏差値	27
第4表	岩屋原産地からのサヌカイト原石66個の分類結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	27
第5表	和泉・岸和田原産地からのサヌカイト原石72個の分類結果	27
第6表	和歌山市梅原原産地からのサヌカイト原石21個の分類結果	27
第7表	北田遺跡出土サヌカイト製石器・剥片の元素比分析結果	27
第8表	北田遺跡出土安山岩製石器・剥片の産地推定	29

卷頭写真目次

図版1 調査地及び周辺航空写真

図版 2 上 竪穴住居跡 (SH01) 全景 (南西から)

下 竪穴住居跡 (SH01) 中央土坑 (北から)

写真図版目次

図版 1 上 調査地区遠景 (西から)

下 調査地区近景 (西から)

図版 2 上 調査区全景 (西から)

下 竪穴住居跡 (SH01) 全景 (東から)

図版3 上 竪穴住居跡 (SH01) 検出状況 (南西から)

下 竪穴住居跡 (SH01) 完掘状況 (南西から)

図版 4 上 竪穴住居跡 (SH01) 中央土坑 (北から)

下 竪穴住居跡 (SH01) 埋土断面及び壁溝 (西から)

図版 5 竪穴住居跡 (SH01) pit No.1 · 2 · 3 · 4 · 5 · 9 · 10 · 11

図版 6 上 確認調查風景

下 本調查風景

図版7 弥生土器(1)

図版8 弥生土器(2)

図版 9 石器 (1)

図版10 石器(2)



第1章 はじめに

第1節 調査に至る経過

兵庫県洲本土木事務所では、三原郡南淡町が実施する阿万地区の土地改良事業に併せ、主要地方道洲 本南淡線道路改良事業の計画を進めてきた。

この計画にかかる埋蔵文化財の取り扱いについては平成4年度に県教育委員会と協議がなされ、埋蔵 文化財調査事務所が分布調査を実施した。その結果、一部の地区で土師器・須恵器片、チャートを採集 し、遺跡確認調査が必要な旨の回答を行った。

一方、ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財の取り扱いについては、南淡町教育委員会が調査主体となり、 平成6年6月に三原郡町村会が遺跡確認調査を実施し、遺跡の範囲を確定した。この調査結果をもとに 町の農地整備課と保存協議を行い、遺跡に影響がおよぶ地区の本発掘調査を実施することになった。

この後、県教育委員会埋蔵文化財調査事務所は洲本土木事務所と遺跡保存のための具体的な協議に入

り、平成6年10月に道路改良 工事に伴う遺跡の範囲を把握 するための、確認調査(試掘 境7ケ所)を実施する。その 結果、2ケ所で弥生時代の遺 物包含層を検出し、この地区 の遺構の有無を把握するため に、再確認調査を行うことに なった。

同6年12月に実施した第2 次確認調査(トレンチ3本) では、弥生時代の遺物包含層 と共にピット等を検出してい る。この成果にもとずき、再 度洲本土木事務所と事業区域 内の埋蔵文化財の取り扱いに ついて、協議を重ねてきた。 そして、計画地内の一部に本 調査の必要があるという結論 に至ったのである。



第1図 調査地位置図

第2節 調査概要とその組織体制

1. 確認調查

確認調査は、平成6年10月中旬と平成6年12月下旬に実施した。調査の目的は、道路改良事業用地内 の遺構の有無および性格、さらにその範囲と年代を確認することにある。

第1次確認調查(遺跡調査番号940341)

試掘壙は道路予定範囲に合わせ、長さ約2 mのグリッド (坪) を $15\sim20$ mの間隔に合計7 ケ所を設定した (第2 図上)。

グリッドの掘削は重機を使用した後、人力によりグリッドの断面と平面の精査を行い、土層の堆積状 況と遺構の有無確認に努めた。

第1・3・4・5グリッドは、遺構・遺物とも認められなかった。第2グリッドでは、少量の土器が 出上したが、堆積状況からみると混入のようである。第6グリッドでは、第4層の暗褐色土からまとまっ て弥生土器が発見された。第7グリッドでも、6グリッドと同じ層から少量ながら弥生土器が出土した。

第1・2グリッドは旧河道にあたる。第3~7グリッドは微高地と想定でき、6・7グリッドでは弥生時代の遺物包含層が確認された。なお、3~5グリッドは水田造成時にかなり削平したようで、遺構・遺物とも認められなかった。

◎発掘調査の組織体制

調 查 主 体 兵庫県教育委員会 埋蔵文化財調查事務所

調查担当 企画調整班 主査 岡田 章一

主査 岸本 一宏

調查実施期日 平成6年10月18日

第2次確認調查(遺跡調査番号940294)

試掘壙は第1次確認調査で遺物包含層の認められた第6・7グリッドに、 $10m \times 2m \times 2m \times 2m \times 1$ 本設定した。(第2図下)。

調査は、遺物包含層までを重機によって掘削する。その後、人力掘削により精査し、遺構の有無確認 に努めた。

No 2トレンチでは、明確な遺物包含層を確認し、ピット等の遺構を検出した。出土遺物は弥生土器である。No 1・3トレンチは磨滅した土器片を採集したが、遺構面は認められなかった。

遺構面が一部しか残ってないのは、後世の土石流等の自然災害によるものと考えられる。

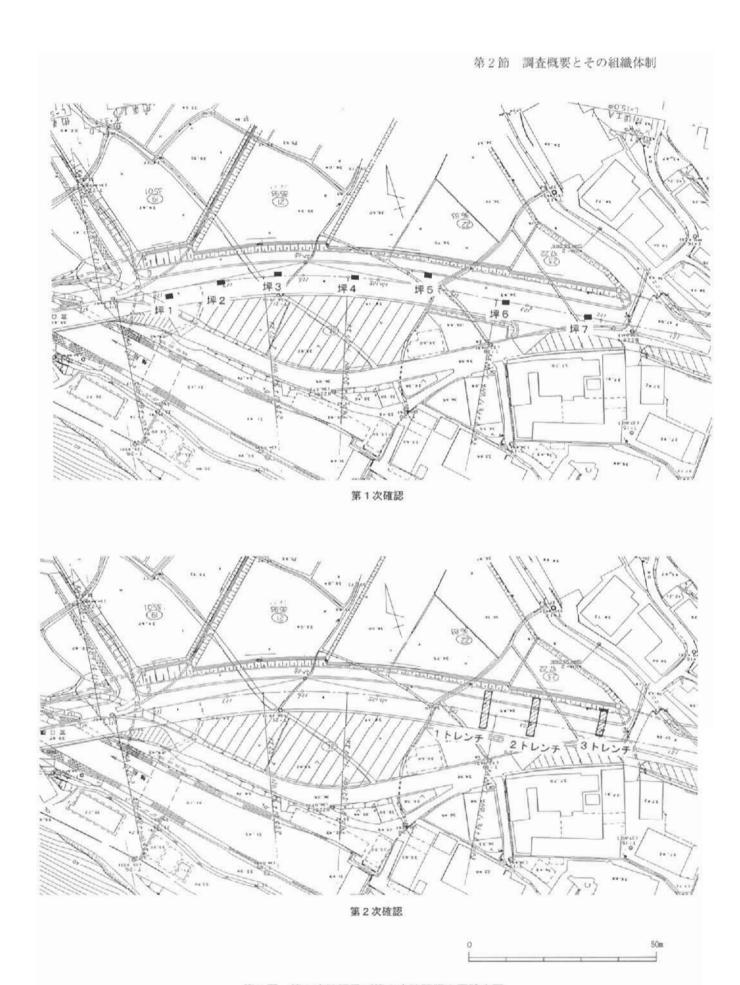
◎発掘調査の組織体制

調 查 主 体 兵庫県教育委員会 埋藏文化財調查事務所

調查担当 調查第3班 主查 吉田 昇

主査 山田 清朝

調查実施期日 平成6年12月21日



第2図 第1次確認及び第2次確認調査区設定図

2. 本発掘調査(遺跡調査番号940323)

前記した2度の確認調査の結果を受けて、平成7年3月下旬に本調査に入った。調査は、南北約13m 東西約19mのいびつな長方形の調査区である(第2図下)。調査面積は約251m²。

調査実施の目的は、この部分の遺構の拡がり (範囲) 及び性格、さらに正確な年代を確認することに ある。特に、弥生時代の遺構の内容実態を把握することが重要な視点である。

調査方法は、最初に現代の耕作土以下遺物包含層上面までを重機によって除去し、その後人力により 掘削・精査を行った。また、写真撮影については枠組み足場を使用して行った。

弥生時代の調査

第2次確認調査と同様に第4層の遺物包含層の掘削から開始した。暗黄褐色砂質土を取り除くと明黄 灰色の地山となる。遺構は竪穴住居跡1棟を検出した。この遺構は、基盤層と考える地山を切り込んで いる。遺物には、住居跡及び包含層出土の弥生時代の土器と石器がある。

◎発掘調査の組織体制

調 查 主 体 兵庫県教育委員会 埋蔵文化財調查事務所

調査担当 主 査 大平 茂

技術職員 岡 昌秀

事務職員 服部 寛

調査実施期日 (自) 平成7年3月22日 ~ (至) 平成7年3月24日

3. 整理調查

洲本土木事務所から委託を受けた兵庫県教育委員会は、発掘調査の成果を社会教育資料とし活用する ために、平成14年度に兵庫県埋蔵文化財調査事務所において整理作業を実施した。

整理作業の内容は、1. 水洗 2. ネーミング 3. 接合・復元 4. 実測・拓本 5. 写真撮影 6. トレース 7. 原稿執筆 8. レイアウト 9. 印刷 10. 報告書刊行となる。

出土遺物は、弥生時代の竪穴住居跡及び遺物包含層から発見した弥生土器と石器で、整理用コンテナ 2 箱である。

◎整理調査の組織体制

調 查 主 体 兵庫県教育委員会 埋蔵文化財調查事務所

調 査 体 制 事務担当 所 長 藤本 修三

主 幹 苦瓜 一成

主 幹 輔老 拓治

主 幹 泉 吉嘉

主任調查專門員 池田 正男

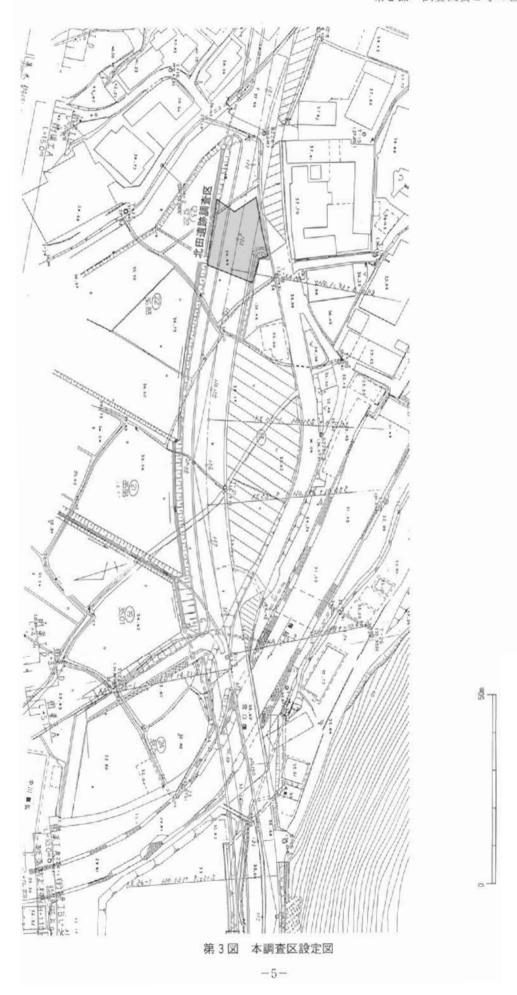
総務課長 森 俊雄

主 查 村上 泰樹

調査担当 主 査 大平 茂

整理担当 主 査 深江 英憲

企画技術員 島田 留里







第4回 発掘作業風景写真

第2章 遺跡をとりまく環境

第1節 地理的環境

ここ南淡町は兵庫県の最南端、淡路島の南西部に位置し、明石市街地から南に約50km、洲本市街地から南西へ約20kmにある。淡路島は大阪湾と播磨灘を分ける瀬戸内海最大の島で、面積は約579kmある。 西は鳴門海峡を隔てて四国を望み、北は明石海峡、南は紀淡海峡で本州と隔てられている。

町域は東西約20km、南北約11kmと東西に長い菱形を呈し、さらに南方に沼鳥を持っている。面積は約87km、人口19,500人前後の農業と漁業地域の町である。交通関係では、町の西端に本州四国連絡道路神戸・鳴門ルートがあり、洲本方面への国道28号線や淡路サンセットラインと南淡路水仙ラインの主要地方道が縦横に走る。交通手段は淡路交通がある。

気候は、瀬戸内海の影響が強く年間平均気温16.5℃、年間平均降水量1.234.6mm 、年間平均降水回数99. 8回と冬は温暖、夏は乾燥した状況である。但し、台風と梅雨の時期には集中豪雨を受ける傾向もあり、河川が短く勾配が急なことから水害も多い。

町内の地形は、東域側半部は中央構造線に沿って島内最高608mの論鶴羽山地が南東に走り、ここから東へは急傾斜で海岸部に至る(断層崖)。北西へは緩やかな傾斜で、山麓から平野に向かって扇状地を形成している。この扇状地は解析を受け、段丘化が著しく進んでいる。河川は平野部に入ると、北阿万付近を境に直進して西淡町に流れる北域のもの(牛内川・大日川・山路川)と、南下して吹上ノ浜に注ぐ南域のもの(塩屋川・本庄川等)があり、平野部も地形的に二分することが可能である。

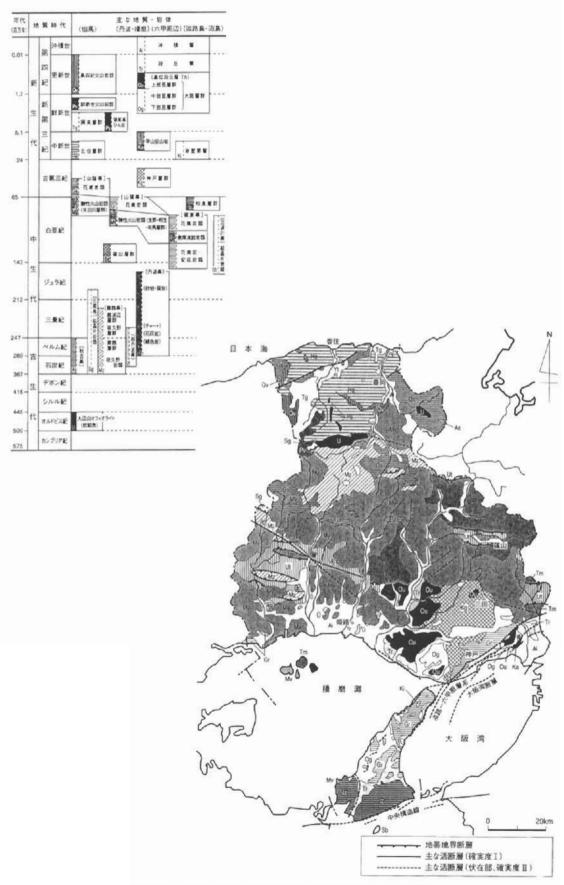
一方、西域側半部は鳴門海峡が深く入り込んだ島内随一の良港である福良湾を中心に小平野があり、 これを取り囲むように西淡町境界等の南辺寺山塊で形成されている。

地質は平野部が新第3紀層で、山地は和泉砂岩からなっている。また、沼島は新古生代に形成された 結晶片岩類からなっている。

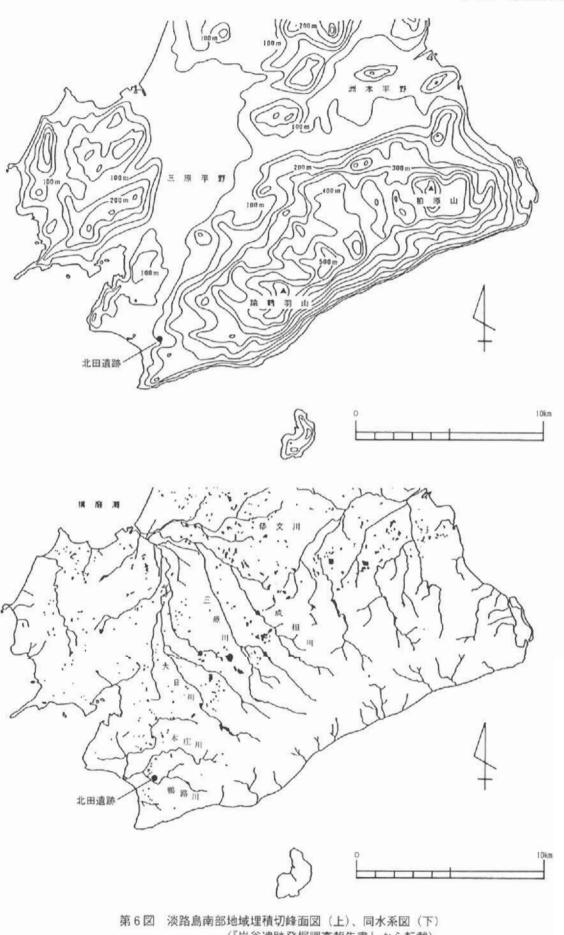
北田遺跡は、兵庫県三原郡南淡町阿万東町に所在する。国立淡路青年の家から東約0.6km に位置し、 鴨路川の平野部入り口の低位段丘上にある。標高は、調査時地表面で約37.0m (T.P) を測る。なお、 北田遺跡の所在地を流れる鴨路川も、阿万に入ると本庄川に合流し南下している。本庄川は、延長6.8 kmの2級河川である。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
気 温℃	6.0	6.0	9.2	14.6	19.4	22.7	27.1	28.1	24.2	18.9	13.4	8.5	16.5
降水量皿	41.3	42.3	76.9	91.7	151.6	174.9	134.7	85.1	203.9	117.4	68.7	45.5	1234.6
降水回数	6.4	6.4	10.5	9.3	9.5	11.8	9.9	6.5	10.1	7.8	6.5	5.1	99.8

第1表 南淡町気象観測データ (過去10年の平均値)



第5図 兵庫県の地質区分と地質形成史及び地質概要図 (『兵庫の地質』から転載)



(『岩谷遺跡発掘調査報告書』から転載)

第2節 歷史的環境

南淡町内の遺跡は主に地形環境に合わせ四つに分割することが可能で、大日川上流域(牛内川・山路川を含む)、本庄川流域(塩屋川・鴨路川を含む)、福良湾周辺、そして沼島に存在している。

以下、各時代の遺跡について年代順に概観してみよう。

1. 旧石器時代

旧石器時代の遺跡(遺物)は、近年、**曽根遺跡**(2)にサヌカイト製のナイフ形石器と翼状剥片及び チップが発見されているのみである。しかし、地理的条件から考えて、牛内川流域の長原遺跡等サヌカ イト片の散布する遺跡があり、今後確認される可能性は非常に高いといえる。

2. 縄文時代

牛内川流域の楠谷遺跡 (3) に、サヌカイト製の有舌尖頭器が出土している。また、長原遺跡 (4) と本庄川流域の奥河内遺跡 (5) でも、有舌尖頭器が表採され、奥河内遺跡では早期の山形押型文土器 も出土している。なお、前期以降の遺跡・遺物は未発見である。

このように、まだ遺跡数・遺物量とも非常に少ない地域である。しかし、旧石器と同様に段丘部上の 調査、そして後期以降の遺跡では東浦町の佃遺跡のように、低地にも注意する必要がある。

3. 弥生時代

弥生時代前期の遺跡は、町内ではこれまた未発見である。現在までのところ、本庄川流域の河内遺跡 (6)の壺形土器が町内弥生時代最古の遺物(畿内第Ⅲ様式)であろう。

中期の遺跡は、この河内遺跡の他、福良湾周辺の岩谷遺跡(7)・西山遺跡(8)に土器や石器が出 土している。何れも明確な遺構を検出していないが、西山遺跡は高地性集落と捉えられている。なお、 岩谷遺跡では製塩土器も確認され、この時期から淡路島で製塩が始まったことも明らかにされた。

後期になると、上記河内遺跡に竪穴住居跡(円形3棟)と山路川流域の護国寺東遺跡(9)に竪穴住居跡(円形3棟)が出現する。また、同流域の平松遺跡(10)や、塩屋川流域に初田遺跡(11)、鴨路川流域に北田遺跡(1)、本庄川流域の佐古谷遺跡(12)と、前記福良湾周辺の岩谷遺跡で発掘調査により土器が出土している。さらに、岩谷遺跡では製塩土器も発見されている。その他、石ケ坪遺跡(13)・高萩遺跡(14)・細田遺跡(15)・八斗一遺跡(16)・池ノ尻遺跡(17)等が散布地として知られている。遺跡数は増加するものの、平野周辺部や谷部の遺跡であり、拠点集落になるものではない。三原平野に存在した拠点集落からの分村か、洪水等の災害で段丘上に上がり、小規模化したものといえよう。縄文時代晩期に北九州に入ってきた水稲耕作は、瀬戸内海から淡路島に至ると、三原平野や洲本平野の低地の水田開発を行ってきたのである。しかし、現在までのところ前期・中期の拠点集落は本州側に比較すると三原平野の雨流遺跡・幡多遺跡、洲本平野の下内膳遺跡程度と非常に少ない。中期後半から後期にかけて遺跡数は増えるというものの、淡路島の銅鐸を始めとする青銅器の保有数から見ると真に不思議な現象である。三原川・洲本川等の流路・水量の不安定さが原因で、流失もしくはまだ三角洲内の自然堤防上に埋没しているのではないだろうか。

4. 古墳時代

三原平野に前・中期の古墳が存在しないのと同様に、町内の古墳の出現も後期に入ってからである。数も少なく規模も小さな円墳であり、埋葬主体は横穴式石室や竪穴式小石室(小竪穴)となっている。後期古墳には、現在残存する淡路鳥最大の石室である西山北古墳(18、横穴式石室全長7.93m・幅1.89m)・西山南古墳(19、横穴式石室全長4.46m・幅1.09m)・野田山古墳(20、横穴式石室幅約1.7 m)・小山古墳(21、横穴式石室?幅0.6 m)・丸田古墳(22、横穴式石室?幅1.25mと0.9 mの2基)・沼島古墳(23、小竪穴石室)や八幡古墳(横穴式石室)・前山古墳(小竪穴石室)・黒岩古墳(小竪穴石室)等がある。

これらの古墳のうち小竪穴石室は、西淡町沖ノ島古墳群と同様に海を生活基盤とした人々 (三原の海人) の墳墓と考えられている。

また、集落遺跡については平松遺跡 (後期) や、淡路島の特徴を示す土器製塩の玉造遺跡 (24、後期) ・ノダラの浜遺跡 (25、後期) が見つかっている。しかし、遺跡数の少なさと共に雨流遺跡の玉造り・ 鉄生産に見られるように淡路は畿内政権の直轄地なのか未だ不明な点も多く、今後の検討すべき課題と して残っている。

5. 歷史時代

奈良時代になると三原郡には国府や国分寺が置かれ、町域は阿万郷・賀集郷に属している。

遺跡としては、護国寺跡(26)や戸川池窯跡(27)が知られ、戸川池では後期の須恵器と窯体片が採集されている。また、平城宮跡出土の木簡に「淡□国三原郡阿麻郷戸主[] 戸同[] 調塩三斗……」と記載されたものがあり、阿万郷で製塩が行われていたことも明らかになっている。

平安時代では後期になると、瓦片が採集された南辺寺古堂跡 (28) · 正福寺跡 (29) · 諭鶴羽神社遺跡 (30) 等の遺跡が営まれる。

奈良・平安時代では、このように生産遺跡もしくは荘園関係と仏教流布の遺跡を見ることができる。 さらに、注目すべきは福良港が、南海道の福良駅と呼ばれ、海上交通の中心地であったことである。

中世に入ると、阿万庄・賀集庄等の荘園も成立してくるのである。北田遺跡では、平安時代末から鎌 倉時代にかけての掘立柱建物跡が見つかっている。

また、城跡として郷殿城跡 (31) ・塩屋城跡 (32) ・殿土居館跡 (33) 等が知られている。

参考文献

兵庫県土木地質図編纂委員会編 『兵庫の地質』 兵庫県土木部 1996年

吉識雅仁編 『鈩田遺跡』兵庫県文化財調査報告第78集 1990年

坂口弘貢・定松佳重編 『岩谷遺跡』南淡町文化財調査報告書第2集 南淡町教育委員会 1995年 坂口弘貢・定松佳重編 『河内遺跡』南淡町文化財調査報告書第3集 南淡町教育委員会 1997年 浦上雅史編 『邪馬台国の時代と淡路島』 淡路文化資料館 1987年

浦上雅史編 『淡路島の古墳時代』 淡路文化資料館 1993年

三原郡広域事務組合編 『古墳時代のみはら』 三原郡広域事務組合 2001年



No	遺跡名	年 代
1	北田遺跡	弥生時代・中世
2	曾根遺跡	旧石器時代·平安時代
3	楠谷遺跡	縄文時代
4	長原遺跡	縄文時代
5	奥河内遺跡	縄文時代
6	河内遺跡	弥生時代・中世
7	岩谷遺跡	弥生時代・平安時代
8	西山遺跡	弥生時代
9	護国寺東遺跡	弥生時代·平安時代
10	平松遺跡	弥生時代~中世
11	初田遺跡	弥生時代~平安時代
12	佐古谷遺跡	弥生時代~古墳時代
13	石ケ坪遺跡	弥生時代~中世
14	高萩遺跡	弥生時代
15	細田遺跡	弥生時代
16	八斗一遺跡	弥生時代
17	池ノ尻遺跡	弥生時代

Na	遺跡名	年 代
18	西山北古墳	古墳時代
19	西山南古墳	古墳時代
20	野田山古墳	古墳時代
21	小山古墳	古墳時代
22	丸田古墳	古墳時代
23	沼島古墳	占墳時代
24	玉造遺跡	古墳時代・中世
25	ノダラの浜遺跡	古墳時代
26	護国寺跡	奈良時代
27	戸川池窯跡	奈良時代
28	南辺寺古堂跡	平安時代
29	正福寺跡	平安時代~中世
30	諭鶴羽神社遺跡	平安時代
31	鄉殿城跡	中世
32	塩屋城跡	中世
33	殿土居館跡	中世

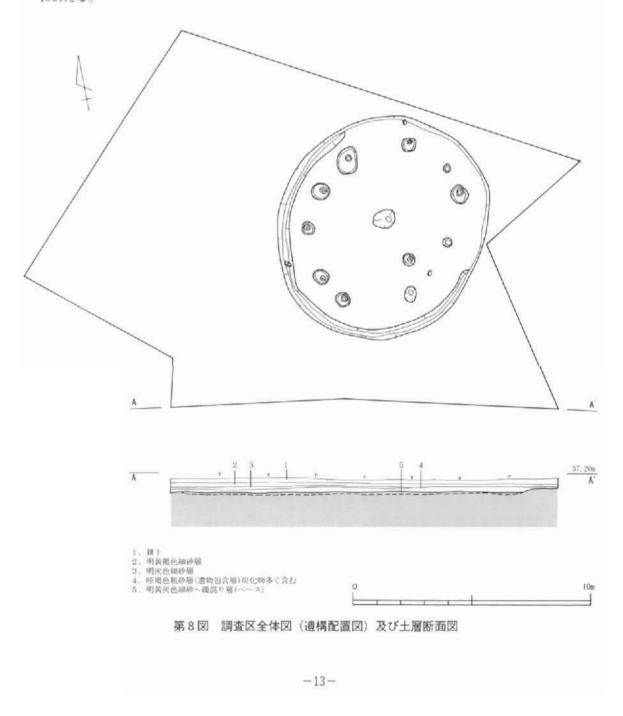
第7図 北田遺跡周辺の遺跡分布地図及び地名表

第3章 調査の記録

第1節 遺跡の立地と基本堆積土層

1. 遺跡の立地

地形分析から見れば、当該地区は鴨路川・本庄川が形成した居住域及び水田に利用されたであろう扇 状地・低地平野と、諭鶴羽山系から延びてきた最西南端の山地から成りたっていることが理解出来る。 そして、調査地は鴨路川が作りだした小規模な谷筋と、阿万地域の平野部が交差する位置の微高地上 にあたる。



2. 基本堆積土層と検出遺構

確認調査及び本調査の土層断面観察からみた基本堆積土層は、次のとおりである。

- 第1層-耕作土 (厚さ10~15cm)
- 第2層-明黄褐色細砂 (厚さ平均10cm) 旧耕作土及び床土
- 第3層-明灰色細砂 (厚さ平均 5cm) 旧耕作土及び旧床土
- 第4層-暗褐色粗砂 (厚さ10-20cm) 遺物包含層
- 第5層-明黄灰色細砂~礫、基盤層と考えている。

遺構は、弥生時代の竪穴住居跡 (SH01) 1 棟のみである。第5層面を切り込んで造られ、埋土は暗 褐色粗砂である。なお、県教育委員会の調査区では確認できなかったが、周辺には古代から中世にかけ ての遺構が存在する (第5章参照)。

第2節 検出遺構と遺物出土状況

1. 概要 (第8図)

遺構は弥生時代の竪穴住居跡が1棟であり、調査区内の東部に存在する。西側には、一切遺構が見られない。また、2次の確認調査でも西への拡がりは認められなかった。さらに、三原郡町村会(現三原郡広域事務組合埋蔵文化財調査事務所)が実施した周辺のほ場整備事業の結果から見ても、この時期の遺構は存在せず、わずかに後期の土器が確認されたにすぎない。

そして、周辺の微地形を見ると調査区外の北東に高地があり、そこから西へ徐々に低くなっている。 この高地(現集落内)に、中期から後期の竪穴住居がもう1~2棟存在する程度の集落であろう。

2. 遺構

竪穴住居跡SH01 (第9回·写真図版3·4·5)

検出状況 調査区の東部で発見した住居跡である。最初の調査区設定では、一部途切れることが明ら かになったので東へ拡張した。検出面である明黄灰色の地山層を切り込んで造り、床面まで の深さは約10cmとまずまずの遺存状況である。床面の標高は36.44m~36.25mを測り、東か ら西に傾斜する。

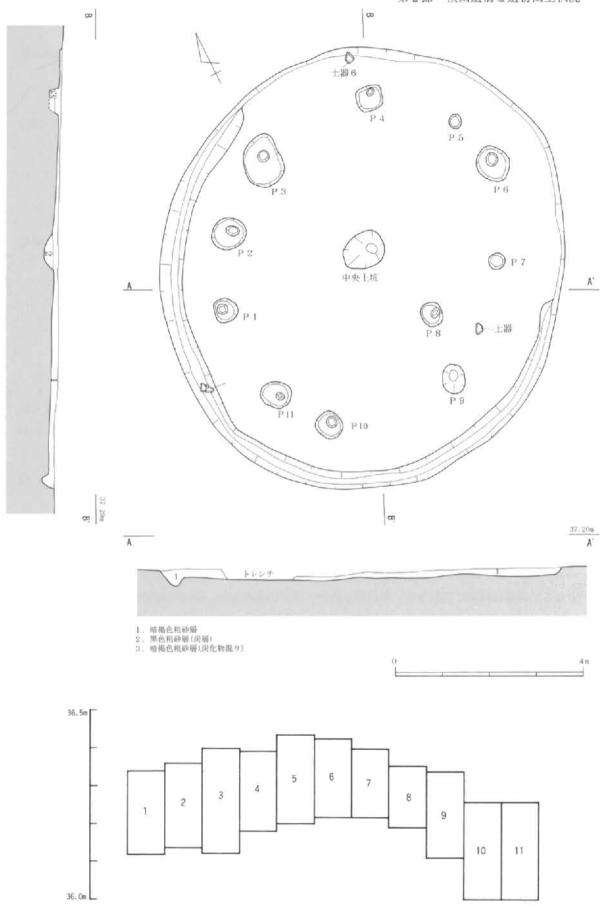
平面形態 平面形態は長軸9.30m (同床面長8.75m)、短軸8.40m (同床面長7.90m) の楕円形を呈する。床面積は、54.40mの大型住居である。

屋内施設 周壁溝・柱穴・中央土坑がある。

周壁溝は、床面のレベルが低い西半分にのみ巡らせている。幅約30~40cm、深さ約10cmを 測り、断面形態はU字形である。

柱穴は11本分(掘方の径約40~80cm、深さ約15~25cm)が確認された。柱間距離を勘案すると、 $1 \cdot 3 \cdot 4 \cdot 6 \cdot 7 \cdot 9 \cdot 10$ の7本で十分建上げ可能となるが、建替えを行っていないことを前提に、主柱は10本と捉えておく。

中央土坑は長軸約 100cm×短軸約70cmの東西に長い楕円形で、深さ約20cmを測る。埋土中 には灰・炭化物を多量に含み、若干の土器片も認められた。



第9回 竪穴住居跡SH01平面図・断面図及び柱穴深度図

出土状況 遺物は中央土坑から8・11の弥生土器、床面には6の他図化不可能な弥生土器がある。また、柱穴ではP2からS6の石器、P3にはS4・S5・S8の石器を発見している。

その他、埋土中にも弥生土器・石器が多数認められた。

なお、出土土器は後述のようにかなり年代幅があるが、住居の築造時期は中期後半(畿内 Ⅳ様式)と捉え、後期の土器を混入と考えている。

第3節 出土遺物

今回の調査では、前記のように弥生時代の住居跡から出土した弥生土器・石器の他、包含層から発見 した弥生土器・石器の遺物がある。

ここでは、上器・石器に分け、遺構及び包含層ごとに記述する。

1. 竪穴住居跡SH01出土の土器 (第10図1~17·写真図版7)

器種は壺、鉢、甕、高杯がある。

広口壺 (1) は最大径が中位にくるであろう体部に、斜め上方に開く頸部から水平方向に外反する口 緑部を持ち、端部の拡張はほとんど無く、凹線も認められない。復元口径12.5cm。文様構成は、頸か ら体部上半にかけて櫛描直線文で飾る。(2・3) は体部の破片で、2は体部上半を櫛描直線文と最下 段の列点文で飾る。3は強く張り出した胴部を持ち、体部上半は櫛描直線文と波状文で飾る。(4) は 頸の破片で櫛描直線文で飾る。(5) も胴部の破片で、櫛描直線文と波状文で飾る。

鉢(6)は底部が丸に近く、浅い逆円錐台形の直口を持つ。外面はヘラミガキ。復元口径16.2cm。

甕 (7・8) は胴部上半のみ破片で、7は頸に指頭圧痕突帯文を有する。8は内外面ともハケ調整。

(9・10・11) は鉢もしくは高杯杯部のみの破片で、9は内湾した体部がそのまま立ち上がり口縁部となる。端部は内側に肥厚させ、平坦面を持つ。復元口径23.8cm。10は口縁部を直立して立ち上げ、端部を内外に拡張し平坦面を持つ。外面はヘラミガキ。復元口径17.2cm。11は大型の浅い皿状の体部に、口縁端部を内側に肥厚させ、平坦面を持つ。復元口径32.0cm。

壺等の底部(12-17)。 $12\cdot 13\cdot 16$ の外面はヘラミガキ。14は内面をヘラケズリする。17は底部が小さく突出し、内面が窪む。

2. 包含層出土の土器 (第10図18~27・写真図版8)

広口壺 (18) は胴部の破片で、櫛描直線文と波状文で飾る。(19) は口縁部の破片で、端部は丸く収める。復元口径13.6cm。

短頸壺(20)は口縁部の破片で、凹線が巡る。復元口径11.6cm。

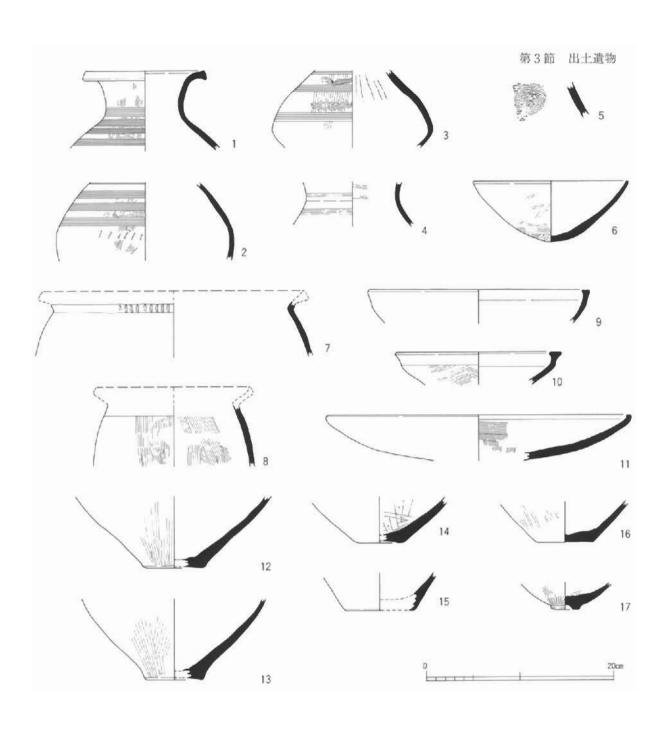
細頸壺(21)は口縁部の破片で、端部は内湾し丸く納める。復元口径 7.8cm。

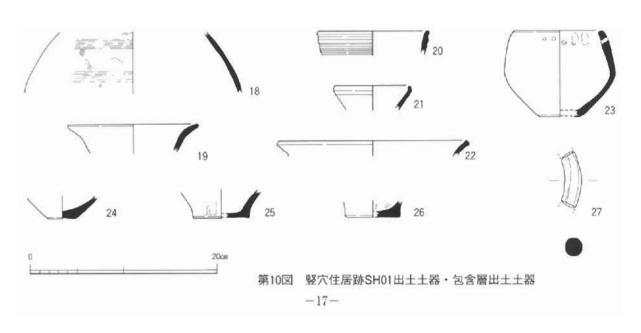
無頸壺 (23) は口縁部直下に2個一対の円孔を持つ。復元口径 9.2cm。器高 9.1cm。

甕(22)は口縁部の破片で、端部を上方に摘みあげている。復元口径20.0cm。

壺等の底部 (24~26)。25・26は甕。

(22) は把手で、断面は丸い。





3. 竪穴住居跡SH01出土の石器 (第11図S1~S8・写真図版9)

器種は石鏃、楔形石器、剥片がある。使用石材はサヌカイトであり、第4章に一部(S2~S5・S8)の原材産地分析を掲載している。

石鏃(S1)は凸基有茎式の完形品で、他の石器と比較するとかなり表面が風化している。

S2·S5は、楔形石器の剥片と思われるものである。どちらも二上山産。

楔形石器 (S3·S4)、S3は上下端に階段状剥離が認められ、S4は上部側を折損している。ともに二上 山産。

S6は、下端に使用痕が認められる剥片である。

S7は打製石包丁になる横長剥片の素材で、打面側縁辺を素材を作る時の調整によって外湾する背縁部となっている。刃縁部は素材剥片の鋭いエッジをそのまま残す。下端は自然面。上端は新しい折れ。 S8は、側縁部に二次加工のある剥片。連光寺産もしくは国分寺産。

4. 包含層出土の石器 (第11図S9~S12 · 写真図版10)

削器 (S9) は下端を両面から調整剥離を行い、孤状に外反する凸刃に仕上げている。

S10 は石核である。割れ面の風化の程度が異なっている。

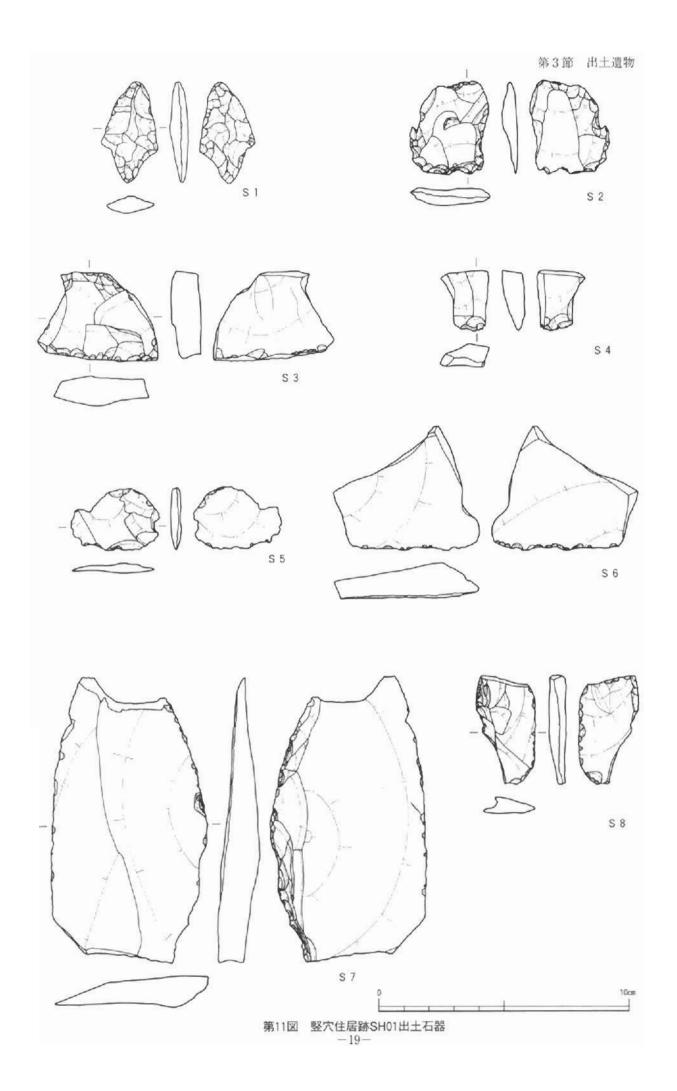
楔形石器 (S11) は上下端に階段状剥離が認められ、縦断面が凸レンズ状を呈する。

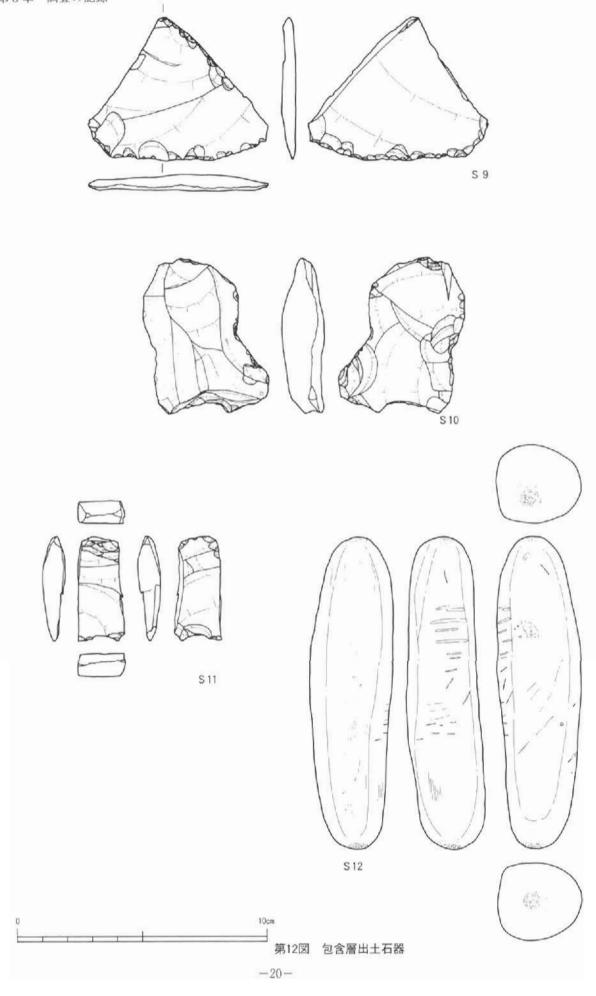
酸石 (S12) は棒状の砂岩の自然礫を素材とする。長軸の両端に敵打痕が認められる。また、側面の 一部に磨った跡も窺える。

なお、石材産地を明記してないものは、肉眼観察によって1が岩屋産、それ以外は金山産と考えている。

番号	器種	遺構·	層位	石 材	長さcm	申届 cm	厚さcm	重ざg	備考
1	石鏃	住居01	埋土	サヌカイト	4.1	2.2	0.7	4.7	
2	楔	住居01	埋土	サヌカイト	3.7	3.65	0.7	8.3	剥片
3	楔	住居01	埋土	サヌカイト	3.5	4.8	1.2	25.2	
4	楔	住居01	Р3	サヌカイト	2.4	1.9	0.9	4.0	
5	楔	住居01	P3	サヌカイト	2.4	3.5	0.4	3.0	剥片
6	剥片	住居01	P1	サヌカイト	4.9	5.8	1.4	25.8	使用痕あり
7	剥片	住居01	埋土	サヌカイト	11.25	6.25	1.7	90.0	
8	剥片	住居01	Р3	サヌカイト	4.3	2.4	0.7	7.3	二次加工あり
9	削器	包含層		サヌカイト	5.6	7.2	0.7	27.2	
10	石核	包含層		サヌカイト	6.1	5.05	1.7	49.6	
11	楔	包含層		サヌカイト	4.1	1.9	0.9	9.5	
12	敲石	包含層		砂岩	12.35	3.3	3.1	188.3	

第2表 石器計測表





第4章 自然科学的調查

北田遺跡出土サヌカイト製遺物の原材産地分析

藁科 哲男 (京都大学原子炉実験所)

1. はじめに

石器石材の産地を自然科学的な手法を用いて客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易およ び文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光X線分析法によりサヌカイトおよび黒曜石遺物の石材産地 推定を行なっている[12,1]。石材移動を証明するには必要条件と十分条件を満たす必要がある。自然の力 で移動した岩石の出発露頭を元素分析で求めるとき、移動原石と露頭原石の組成が一致すれば必要条件 を満たし、その露頭からの流れたルートを地形学などで証明できれば、十分条件を満たし、ただ一カ所 の一致する露頭産地の調査のみで移動原石の産地が特定できる。遺物の産地分析では『石器とある産地 の原石が一致したからと言っても、他の産地に一致しないと言えないために、一致した産地のものと言 い切れないが、しかし一致しなかった場合そこの産地のものでないと言い切れる』が大原則である。考 古学では、人工品の様式が一致すると言う結果が非常に重要な意味があり、見える様式としての形態、 文様、見えない様式として土器、青銅器、ガラスなどの人手が加わった調合素材があり一致すると言う ことは古代人が意識して一致させた可能性があり、一致すると言うことは、古代人の思考が一致すると 考えてもよく、相互関係を調査する重要な結果である。石器の様式による分類ではなく自然の法則で決 定した石材の元素組成を指標にした分類では、例えば石材産地が遺跡から近い、移動キャンプ地のルー ト上に位置する、産地地方との交流を示す土器が出土しているなどを十分条件の代用にすると産地分析 は中途半端な結果となり、遠距離伝播した石材を近くの産地と誤判定する可能性がある。人が移動させ た石器の元素組成とA産地原石の組成が一致し、必要条件を満足しても、原材産地と出土遺跡の間に地 質的関連性がないため、十分条件の移動ルートを自然の法則に従って地形学で証明できず、その石器原 材がA産地の原石と決定することができない。従って、石器原材と産地原石が一致したことが、直ちに 考古学の資料とならない。確かにA産地との交流で伝播した可能性は否定できなくなったが、B、C、 Dの産地でないとの証拠がないために、A産地だと言い切れない。また、B産地と一致しなかった場合、 その結果は考古学の資料として非常に有用である。それは石器に関してはB産地と交流がなかったと言 い切れるからである。ここで、十分条件として、可能なかぎり地球上の全ての原産地(A、B、C、D · · · ·) の原石群と比較して、A産地以外の産地とは一致しないことを十分条件として証明すれば、 石器がA産地の原石と決定することができる。この十分条件を肉限観察で求めることは分類基準が混乱 し不可能であると思われる。また、自然科学的分析を用いても全ての産地が区別できるかはそれぞれが 使用している産地分析法によっても異なり、実際に行ってみなければ分からない。産地分析の結果の信 頼性は何ヶ所の原材産地の原石と客観的に比較して得られたかによるものであり、比較した産地が少な ければ信頼性の低い結果と言える。黒曜石、サヌカイトなどの主成分組成は、原産地ごとに大きな差は

みられないが、不純物として含有される微量成分組成には異同があると考えられるため微量成分を中心に元素分析を行ない、これを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれを対比して、各平均値からの離れ具合(マハラノビスの距離)を求める。次に、古代人が採取した原石産出地点と現代人が分析のために採取した原石産出地点が異なる可能性は十分に考えられる。従って、分析した有限個の原石から産地全体の無限に近い個数の平均値と分散を推測して判定を行うホテリングのT2乗検定を行う。この検定を全ての産地について行うと、例えばある石器原材と同じ成分組成の原石はA産地では10個中に一個みられ、B産地では一万個中に一個、C産地では百万個中に一個、D産地では・・・・一個と各産地毎に結果が得られ、このような客観的な検定結果からA産地の原石を使用した可能性が高いと同定する。即ち多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。

今回分析した弥生時代中期の安山岩 (サヌカイト) 製遺物は、兵庫県三原郡南淡町阿万出土の北田遺跡出土の5個で、産地分析の結果が得られたので報告する。

2. サヌカイト、ガラス質安山岩原石の分析

サヌカイト、ガラス質安山岩原石の自然面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー 分散型蛍光X線分析装置によって元素分析を行なう。分析元素はAl、Si、K 、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、 Sr、Y、Zr、Nbの12元素をそれぞれ分析した。塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すため に元素量の比を取り、それでもって産地を特定する指標とした。サヌカイト、ガラス質安山岩では、K /Ca、Ti/Ca、Mn/Sr、Fe/Sr、Rb/Sr、Y/Sr、Zr/Sr、Nb/Sr の比量を指標として用いる。サヌ カイトの原産地は、西日本に集中してみられ、石材として良質な原石の産地、および質は良くないが考 古学者の間で使用されたのではないかと話題に上る産地、および玄武岩、ガラス質安山岩など、合わせ て32ヶ所以上の調査を終えている。第13図にサヌカイトの原産地の地点を示す。このうち、金山・五色 台地域では、その中の多くの地点から良質のサヌカイトおよびガラス質安山岩が多量に産出し、かつそ れらは数ヶの群に分かれる。丸亀市の双子山の南嶺から産出するサヌカイト原石で双子山群を確立し、 またガラス質安山岩は、細石器時代に使用された原材で、善通寺市の大麻山南からも産出している。こ れら産地の原石および原石産地不明の遺物を元素組成で分類すると132個の原石群に分類でき、その結 果を第3表に示した。香川県内の石器原材の産地では金山・五色台地域のサヌカイト原石を分類すると、 金山西群、金山東群、国分寺群、蓮光寺群、白峰群、法印谷群の6個の群、城山群および双子山群に、 またガラス質安山岩の原石群については、香川県埋蔵文化財センターの森下英治氏より提供された金山 奥池、雄山の原石を補充して、金山・奥池第1群、奥池第2群、雄山群の原石群を確立し、神谷町南山 地区の原石で南山群を作った。このうち、奥池第1群、雄山群、南山群の組成は非常に似ていて、遺物 の産地分析では多くの場合これら3個の群に同時に帰属される。また、大麻山南産は大麻山南第一、二 群の2群にそれぞれ分類され、奥池、雄山、南山の各群と区別することが可能である。これらのガラス 質安山岩は成分的に黒曜石に近いものであり肉眼観察では下呂石に酷似するもの、西北九州産の中町、 淀姫産黒曜石、大串、亀岳原石と酷似するものもみられるため、風化した遺物ではこれら似た原材の肉 眼での区別は困難と思われるので、正確な原材産地の判定をするためには本分析が必要である。またサ ヌカイト原石のうち金山、五色台地域産のサヌカイト原石の諸群にほとんど一致する元素組成を示すも



第13図 サヌカイト及びサヌカイト様岩石原産地

のが淡路島の岩屋原産地の堆積層から円礫状で採取される。これら岩屋のものを分類すると、全体の約2/3が第4表に示す割合で金山・五色台地域の諸群に一致し、これらが金山・五色台地域から流れ着いたことがわかる。淡路島中部地域の原産地である西路山地区および大崩地区において岩屋第一群に一致する原石が、それぞれ92%および88%の割合の個数で存在し、その他に群を作らない数個の原石とがみられ、それらのうちで金山・五色台地域の諸群に一致するものはみられなかった。和泉・岸和田原産地からも全体の約1%であるが金山東群に一致する原石が採取される(第5表)。また和歌山市梅原原産地からは、金山原産地の原石に一致する原石はみられない(第6表)。仮に、遺物が岩屋、和泉・岸和田原産地などの原石で作られている場合には、産地分析の手続きは複雑になる。その遺跡から10個以上の遺物を分析し、第5表・6表のそれぞれの群に帰属される頻度分布を求め、確率論による期待値と比較して確認しなければならない。二上山群を作った原石は奈良県北葛城郡当麻町に位置する二上山を中心にした広い地域から採取された。この二上山群と組成の類似する原石は和泉・岸和田の原産地から6%の割合で採取されることから、一遺跡10個以上の遺物を分析し、第5表のそれぞれの群に帰属される頻度分布をもとめて、和泉・岸和田原産地の原石が使用されたかどうか判断しなければならない。

3. 結果と考察

遺跡から出土した石器、石片は、風化のためサヌカイト製は表面が白っぽく変色し、新鮮な部分と異なった元素組成になっている可能性が考えられる。このため遺物の測定面の風化した部分に、圧縮空気によってアルミナ粉末を吹きつけ風化層を取り除き新鮮面を出して測定を行なった。一方黒曜石製のものは風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだ

西京市	也久间7. 胜久						T.	秦				
17.17.6	AT WEST THE		画数 K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	: e/S	86/	Sr	S	S	2	31/6
	1774				ď	884	0.165 ± 0.011	0.120 ± 0.013	0	0.015 ± 0.013	0	0, 137 ± 0, 007
	田田		0		0,089	064±	174±	-71	0,	+0	LID.	
11-556.38	台場A			o.	086 ± 0.00	941±0.	143±	±0.01	0.	012 ± 0.	018±0.	
1000	台場B		0	-	085 ± 0.01	787 ± 0 .	177	+	0.929 ± 0.041	0,	0	
	台場C			-	116+	800 ± 0	÷0,	135 ± 0.01	+1	0,	0.018 ± 0.002	0.150 ± 0.009
	白棉D	i		-	119 ± 0.01	686±0.	2	+1	+0	+1	0	0.150 ± 0.007
群馬県	产条		0.194	-	129 ± 0.01	205 ± 1.15	8	182		44	0.013 ± 0.021	0.123 ± 0.032
祖奈川県	741Y		0	0	166 ± 0.00	12, 406 ± 0 , 332	023 ± 0		10	0,005±0,007	0	0.012 ± 0.001
新知识	4型 里				0. 141 ± 0.015	218±0.	0.141 ± 0.012	+1	0.819 ± 0.042	+1	0.012 ± 0.001	0.124 ± 0.005
福井県	発展寺田			o,	033 ± 0.00	2.137 ± 0.099	148+	+1		0.022 ± 0.006	0.024 ± 0.002	0.192 ± 0.012
HEGH!	三		70 0.183±0,007	oʻ	153±0.01	018±0.	8	0.157±0.013	+0.	0.019 ± 0.009	0.012 ± 0.001	0.113 ± 0.005
181121	八郎山		46 0.274 ±0.028		±060	$4,905\pm0,505$	0.104 ± 0.009	+1		+0	0	0.168 ± 0.014
岐阜県	DE 12		93 1.576±0.055		_	0	277	8	±0,-	0.035 ± 0.009	0.052 ± 0.003	0.660 ± 0.025
48-4mm	= Ex		0	0	0.052 ± 0.009	4, 672 ± 0 , 338	0.115 ± 0.008	0.083 ± 0.019	0.848±0.028	0.031 ± 0.009	0.020 ± 0.002	0.151 ± 0.005
St. Autoria	三三年	-		0	093 ± 0.00	643±0.	0.141 ± 0.009	107±	\sim	0.038 ± 0.009	021 ± 0	0, 157 \pm 0, 006
奈良県	코	-	- 4	0.215±	0.071±0.	629 ± 0 .	202	+1	620±0	0.024 ± 0.010	0.019 ± 0.001	+
A PACE	~		-	oʻ.	$0.056 \pm 0.$	090±0.	596	$065 \pm 0,01$	± 1	138	0.023 ± 0.001	0.194 ± 0.009
	が一般を		1	ď	057 ± 0	610±0.		0.056±0.012	+1	027±	0.018 ± 0.001	+1:
兵庫県	が原第二			0,263±	$0.053 \pm 0.$	438 ± 0 .	340 ± 0.01	042 ± 0.01	+1	026±	0.017 ± 0.001	0.173 ± 0.008
	=			oʻ	0.056±0.	350 ± 0.2	130 ± 0.01	061±	+0+	-210	0.018 ± 0.001	70
		1	0.457±0.	e,	0	574 ± 0.1	311 ±	0.043 ± 0.016	+0		0.015 ± 0.001	0.149 ± 0.005
E	画	-	0.459±0.	- 1	053 ± 0	518+	10	0	0	034±	16±0.0	
1 10					053	376±0.1	340 ± 0.	040±	0	032±	0.017 ± 0.001	0.173 ± 0.007
-		÷	25 0.397±0.009		0	+619	277 ±	059±0.		031	0.015 ± 0.001	0.130 ± 0.004
111	66	1	24 0.488±0.012	0, 222 ±	0.079±0.0	617±0.1	316±0.	+1	3	±020	017±0.0	0.155 ± 0.005
	-	ł	13 0,405±0,002	0.216±			292 ± 0.	064 ± 0, 01	0 0		015±0.0	0.133±0.006
帝三帝	at Zula	+	EA 0 250+0 002	10000	0.073 +0.0	0.41-0.4	10.01 10.01	11 +	00	1 20	UISTO.	0.116±0.003
		+	0.849+0		0,014 = 0,000	9 007+0 009	0.201 ± 0.012	100	7007	0.023 ± 0.010	0.011 = 0.002	0,103±0,004
	15,	t	H	+	0.033+0	471+0	11+	0.00-010		1 88.0	10	0.331+0.054
			0.827±0.		0.026+0	119+0	485+0	1910	731+0	1 +	035+0.0	0.421+0.027
	田田·拉世*			0.131±	0.027±0.	083±0.0	495±	0+0.01	+0 +	1090 1	+0	0,433±0,023
	* 人林山南第	-84			0.041±0.010	792+	0.473 ± 0.043	03M±	0.965 ± 0.061	044±	0.029 ± 0.003	0
-	*大麻山南郊	盐		0. 124 ± 0.09	0,034±0,011	370±	0.691 ± 0.024	±120	+0.	0.054 ± 0.015	0.039 ± 0.004	0, 480±0, 018
受饭県.	4114		40 0.458±0.04	0.374±	0,073	0	+0,	108 ± 0 .	1, $473 \pm 0,051$	±0,	0.020 ± 0.008	0
200 100 200 2	馬加		o'	0.178+	0.011±0.	916±0.	0.32 ± 0	001±0	177±0.	÷0.	+0.	0
"學歌"	7607	1			0.021±	447±0.	0	1	262 ± 0 .	+0	10.	0
	要 类				0	0	109 ± 0.	080±0.	988±0.	#1	0	
1	「西南西	1	+		0,0	322±0.	174±0.00	029±0.00	0	0	-0.	d'
7. Server 7.5		Ì		0.345±	0 0	0 0	039 ± 0.	0	368 ± 0.	5±0.0	11 -	100
Making St.	大阪工		20 0.340±0,000	0.019 ±0.008	0.020±0.0	34/ I	DA/IU.	0,011 ±0,005	0.381 ±0.021	-	0,0	
	1	t	+	1	0.013 +0.001	2 228+0 080	0.035 - 0.003	10+		0.023-0.003	0.021-0.001	0.171+0.000
中口语	水水	f			10+	240+0	10		0+169	1 +	11+	11 +
H	日本 日		-	0.644±0.	10	125±	453 ± 0.		4777	+1	+0.0	+0.
// 神田田 4			50 1.592±0.066			12		+1	1,671±0,134		+0.	1
			$50 - 3,144 \pm 0,069$	o	0.073±0.009	2,919±0,099	0.925±0.048	0.181 ± 0.026	2,820±0,114	0.072 ± 0.020	0.074 ± 0.026	0,817±0,040
	* R72 A1945 3950 L1974			N 400 H	- A A A A A A A A A	5		40.4				

第3表-2 各サヌカイト(安山岩)の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

X K/C a Ti/C a Mn/S r Fe/S r Rb/S r Rb/S r 0.831±0.047 0.404±0.013 0.056±0.007 4.718±0.225 0.510±0.037 0.834±0.055 0.386±0.016 0.065±0.010 5.342±0.317 0.566±0.007 1.097±0.232 0.350±0.028 0.065±0.014 4.488±0.303 0.701±0.084 1.287±0.051 0.380±0.010 3.633±0.225 0.784±0.030 0.784±0.000 0.705±0.034 0.310±0.011 0.076±0.009 5.323±0.224 0.543±0.020 0.705±0.043 0.310±0.012 0.070±0.009 5.600±0.327 0.489±0.020 0.707±0.019 0.310±0.010 0.070±0.009 5.323±0.240 0.307±0.020 0.707±0.019 0.310±0.010 0.070±0.007 3.789±0.010 0.779±0.007 3.789±0.007 0.707±0.016 0.320±0.010 0.075±0.007 3.888±0.236 0.399±0.021 0.707±0.016 0.320±0.010 0.075±0.010 5.771±0.189 0.236±0.021 0.744±0.016 0.320±0.010 0.075±0.010 5.771±0.189 0.236±0.010 0.744±0.0	200 300 15	ds. do 1000 "T" 400 Zs	SHE					11	土				
多久等一群 53 0.831±0.047 0.464±0.013 0.056±0.007 4.718±0.225 0.510±0.037 多久等一群 23 0.831±0.047 0.464±0.016 0.065±0.010 4.488±0.337 0.566±0.047 多久等三群 28 1.097±0.232 0.350±0.028 0.065±0.010 4.488±0.225 0.701±0.084 基位出 62 0.705±0.034 0.380±0.010 3.643±0.225 0.780±0.030 基位出 62 0.705±0.034 0.310±0.010 0.070±0.008 5.600±0.321 0.780±0.020 基位用 62 0.705±0.034 0.310±0.010 0.070±0.008 5.600±0.321 0.780±0.020 格域第一 7 0.715±0.034 0.310±0.010 0.070±0.008 5.600±0.321 0.780±0.020 株態第一 7 0.715±0.034 0.310±0.007 0.070±0.008 5.600±0.321 0.780±0.020 株態第一 7 0.710±0.032 0.310±0.007 0.070±0.008 5.600±0.321 0.730±0.020 株態第一 7 0.710±0.032 0.310±0.007 0.070±0.008 5.600±0.021 0.731±0.021	原性力	医有原白群名	個数	2	Ti/Ca	n/S	18	Sr	X	Zr/Sr	NB/Sr	ALZCa	
多久第 書籍 23 0.884±0.055 0.386±0.016 0.065±0.010 5.342±0.317 0.566±0.047 多久第 書籍 8 1.087±0.232 0.386±0.013 0.055±0.010 4.488±0.225 0.170±0.038 0.01 <t< td=""><td></td><td>人歌一</td><td>23</td><td>831 ± 0.</td><td>0.404 ± 0.013</td><td>056 ± 0.</td><td>718±0.</td><td>510±0.</td><td>062</td><td>850±0.</td><td>222 ± 0. (</td><td>016</td><td>201±0</td></t<>		人歌一	23	831 ± 0 .	0.404 ± 0.013	056 ± 0.	718±0.	510±0.	062	850±0.	222 ± 0. (016	201±0
多久等 - 指 8 1.097±0.232 0.350±0.028 0.065±0.014 4.498±0.933 0.701±0.034 種類 1 0.705±0.054 0.310±0.013 0.058±0.010 3.643±0.225 0.701±0.030 老他山山 62 1.287±0.054 0.310±0.010 0.058±0.010 3.643±0.225 0.705±0.030 並付出 62 0.705±0.043 0.310±0.010 0.070±0.008 5.600±0.321 0.348±0.029 担待用 7 0.717±0.036 0.410±0.012 0.088±0.010 7.489±0.244 0.387±0.023 校園等 47 0.717±0.036 0.410±0.012 0.088±0.010 7.489±0.244 0.387±0.023 株職業等 47 0.777±0.036 0.410±0.007 0.076±0.007 3.883±0.234 0.383±0.022 株職業等 47 0.777±0.036 0.400±0.007 0.765±0.007 3.883±0.234 0.383±0.022 40 0.970±0.018 0.380±0.010 0.705±0.007 3.883±0.236 0.382±0.021 0.383±0.022 40 0.774±0.018 0.380±0.010 0.775±0.007 0.765±0.007 0.766±0.007 0		/第一	23	834 ± 0	0.396 ± 0.016	065±0.	342±0.	566 ±0.	081±0.	0.0	242±0.	016±0.	202 ±
検し 記		Sept.	00	097 ± 0	0.350 ± 0.028	065 ± 0	498±0.	701 ± 0 .	0.084 ± 0.025	0.828 ± 0.052	+0	10.	+1
春松山		柳雪	45	287 ± 0	0.340 ± 0.013	058±0.0	643±0.	784 ± 0 .	081 ± 0	0.0	265±	038±	458±
特別		老松山	92	0.705 ± 0.034	0.314 ± 0.011	067 ± 0.0	323 ± 0 .	543±0.	0.075 ± 0.021	169	208±0.	014±0.	174
格権を開発		中三・国外	30	629 ± 0 .	0.310 ± 0.010	070 ± 0.0	600 ± 0	489±0.	066±0.	0.644 ± 0.032	192±0.	013±0.00	157±0.
松尾電響 47 0.717±0.036 0.410±0.012 0.081±0.006 5.312±0.241 0.383±0.024 位尾電響 47 0.717±0.036 0.410±0.012 0.081±0.007 3.683±0.122 0.431±0.021 植葉葉等一群 41 0.872±0.027 0.389±0.010 0.065±0.007 3.683±0.122 0.431±0.021 椎葉電等一群 41 0.875±0.016 0.390±0.010 0.075±0.007 3.683±0.236 0.392±0.021 椎葉電等一群 41 0.875±0.016 0.390±0.010 0.075±0.007 3.683±0.236 0.395±0.021 椎葉電等一群 12 0.538±0.011 0.401±0.007 0.075±0.010 5.71±0.189 0.236±0.013	休賀県	西有田	17	0.453±0.019	0.331 ± 0.005	0.98 ± 0.0	489 ± 0 .	307 ± 0 .	÷0,	568±0.0	106±0.	023 ± 0	237±
権護院等一群 40 0.970±0.032 0.330±0.009 0.066±0.007 3.683±0.122 0.431±0.021 権護院等一群 41 0.675±0.027 0.369±0.010 0.055±0.007 3.688±0.236 0.392±0.021 権護院等一群 41 0.675±0.016 0.360±0.010 0.073±0.007 4.666±0.218 0.346±0.021 権護院等一群 12 0.538±0.011 0.401±0.007 0.076±0.010 5.71±0.189 0.296±0.019 大 中 28 1.111±0.118 0.140±0.000 0.055±0.020 1.650±0.226 0.399±0.020 大 中 28 1.111±0.118 0.140±0.008 0.041±0.000 1.776±0.122 0.233±0.014		松尾転職	47	0.717 ± 0.036	0.410 ± 0.012	081±0.	312±0.	383 ± 0 .	094 ± 0	810±0.	095±0.	028±0.02	291±0.
権護国等一群 42 0.822±0.027 0.369±0.010 0.065±0.007 3.888±0.236 0.392±0.021 権護国等一群 41 0.675±0.016 0.380±0.010 0.073±0.007 4.666±0.218 0.346±0.021 権護国等一群 41 0.675±0.016 0.380±0.010 0.073±0.007 4.666±0.218 0.346±0.021 椎権運用等 112 0.538±0.011 0.040±0.010 0.075±0.010 5.771±0.189 0.296±0.010		松尾第二群	40	970 ± 0 .	0.330 ± 0.009	066 ± 0.0	683 ± 0 .	431±0.	0.077±0,016	0.554 ± 0.023	0.110 ± 0.021	0.034 ± 0.003	+1
権護軍等二群 11 0.675±0.016 0.350±0.010 0.073±0.007 4.666±0.218 0.346±0.021 権護軍等二群 12 0.538±0.011 0.401±0.007 0.076±0.010 5.771±0.189 0.236±0.013 権権運業の課業 37 0.744±0.014 0.401±0.007 0.076±0.010 5.771±0.189 0.236±0.013 権権運業の課業 37 0.744±0.014 0.401±0.008 0.045±0.010 5.771±0.189 0.236±0.013 権 1 0.072±0.042 0.144±0.008 0.045±0.020 1.650±0.236 0.236±0.013 年 1 3 0.784±0.042 0.345±0.072 0.069±0.006 1.776±0.132 0.233±0.014 付 1 0.069±0.008 1.650±0.039 1.550±0.013 0.088±0.009 1.650±0.039 0.875±0.013 0.088±0.009 1.650±0.039 0.875±0.014 0.081 0.069±0.009 1.756±0.132 0.231±0.014 0.328±0.013 0.088±0.010 1.756±0.011 1.114±0.104 0.081 0.406±0.048 0.285±0.013 0.088±0.010 1.756±0.018 1.211±0.010 0.081 0.		植業産第一群	42	822 ± 0 .	0.369 ± 0.010	065±0.	888 ± 0.	392 ± 0 .	076 ± 0 .	540	± 680	0.027 ± 0.009	330±
権策国第三群 12 0.538±0.011 0.401±0.007 0.076±0.010 5.271±0.189 0.296±0.019 権策国第四群 37 0.744±0.014 0.409±0.010 0.080±0.010 5.176±0.202 0.399±0.020 4 日 28 1.111±0.118 0.140±0.008 0.055±0.020 1.650±0.122 0.399±0.020 4 日第一群 30 0.784±0.020 0.345±0.026 0.069±0.008 1.776±0.152 0.233±0.014 4 日第一群 30 0.784±0.022 0.328±0.013 0.088±0.010 7.759±0.111 1.114±0.104 月 3 0.406±0.038 0.328±0.010 0.067±0.004 4.861±0.236 0.875±0.018 福井等一群 30 0.406±0.048 0.265±0.017 0.067±0.004 4.861±0.374 0.220±0.018 福井等一群 50 0.406±0.048 0.265±0.027 0.071±0.004 4.864±0.315 1.211±0.040 福井等一群 50 0.500±0.012 0.329±0.005 0.090±0.011 7.531±0.315 1.211±0.040 福井等一群 50 0.512±0.014 0.317±0.008 0.084±0.011 7.531±0.315 1.211±0.040 阿斯森等一群 56 0.590±0.012 0.329±0.020 0.077±0.009 5.396±0.48 0.330±0.028 阿斯森等一群 50 0.590±0.012 0.303±0.020 0.077±0.009 5.396±0.448 0.330±0.028 阿斯森等一群 41 0.642±0.071 0.310±0.010 0.070±0.008 5.396±0.448 0.330±0.028 阿斯森等一群 41 1.045±0.071 0.310±0.010 0.070±0.008 5.396±0.400 0.312±0.048		椎葉屋第二群	41	0.675 ± 0.016	0.390 ± 0.010	073±0,0	666 ± 0	346±0.	0.078 ± 0.012	+0	087±	024±0.	280+
株菓菓子の指 (本田第二部 28 1.111±0.118 0.140±0.010 0.080±0.010 5.176±0.202 0.399±0.020 (本田第一群 30 0.784±0.042 0.144±0.008 0.041±0.006 1.776±0.122 0.399±0.004 (本田第一群 30 0.784±0.042 0.144±0.008 0.041±0.006 1.776±0.152 0.233±0.014 (本田第一群 30 0.784±0.048 0.328±0.013 0.088±0.010 7.759±0.111 1.114±0.104 (田爾里 群 59 0.408±0.013 0.067±0.005 4.225±0.181 0.220±0.018 (周州第一群 15 0.630±0.012 0.325±0.011 0.067±0.005 4.225±0.181 0.220±0.018 (福州第一群 55 0.406±0.048 0.255±0.005 0.090±0.011 7.531±0.315 1.211±0.040 (福州第一群 58 0.382±0.026 0.255±0.005 0.090±0.011 7.531±0.315 1.211±0.040 (福州第一群 58 0.382±0.026 0.252±0.027 0.071±0.009 4.106±0.227 0.160±0.018 (阿藤野-群 58 0.382±0.026 0.252±0.023 0.052±0.006 4.106±0.227 0.160±0.018 (西野-陳第一群 56 0.590±0.072 0.333±0.020 0.077±0.009 5.396±0.448 0.330±0.028 (西藤野-群 41 1.045±0.071 0.310±0.010 0.070±0.008 5.296±0.448 0.330±0.028 (西藤野-群 41 1.045±0.171 0.547±0.060 0.052±0.008 2.822±0.410 0.312±0.048 (本日) 4.48±0.020 0.052±0.008 0.082±0.008 0.194±0.018		権 集団第一群	12	0.538 ± 0.011	9	076	271 ± 0	296 ± 0 .	0.	0,587	0.075 ± 0.009	0.022 ± 0.002	227
A		椎葉屋第四群	37	744	0.409 ± 0.010	7080 +	176 ± 0 .	399 ± 0.0	092	0,807±	∓960	0.029 ± 0.003	302
権 括		大田	25	Ξ	0.140 ± 0.009	$055\pm0.$	650 ± 0 .	236 ± 0 .	0.041 ± 0.027	$0.486 \pm 0.$	÷0,	050 ± 0	0.607 ± 0.059
年田第一群 30 0.784±0.092 0.345±0.026 0.069±0.008 4.561±0.236 0.875±0.132 年田第二群 13 0.594±0.048 0.328±0.013 0.088±0.010 7.758±0.411 1.114±0.104 141 1114等。		四四四	5:	072 ± 0		041±0.	776 ± 0	233±0.0	0.015 ± 0.013	497	1990	0.049 ± 0.003	587
年用第二群 13 0.594±0.048 0.328±0.013 0.088±0.010 7.759±0.411 1.114±0.104 11 11 11 11 11 11 11		4田第一群	30	784±0.	0,345±0,026	()69±0.	561±0.	875 ± 0 .	220±	±0,	0.299 ± 0.039	015	0.188 ± 0.021
川棚第一群		本田第二群	- 23	594 ± 0.	0.328 ± 0.013	188 ±	759 ± 0	114 ± 0	0.348 ± 0.031	989 ± 0	0.496 ± 0.041	0.012 ± 0.001	144
福井等一書 9 0.406±0.048 0.285±0.027 0.071±0.004 4.854±0.374 0.203±0.029 福井等一書 15 0.630±0.012 0.329±0.005 0.090±0.011 7.531±0.315 1.211±0.040 福井等一書 25 0.512±0.044 0.37±0.008 0.084±0.011 7.531±0.315 1.211±0.040 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	11,66411	11棚第一群	26	438±0.	0.302 ± 0.011	067 ± 0.0	225 ± 0	220±0.	0.76 ± 0	814±0,048		012±	133
福井等一样 15 0.630±0.012 0.329±0.005 0.090±0.011 7.531±0.315 1.211±0.040	December of the second	温・金属	6	406 ± 0	0.265 ± 0.027	071 ± 0.0	854 ± 0 .	203 ± 0.	+0	±0,048	0.034 ± 0.017	0.011 ± 0.001	100
福子等 様 25 0.512±0.014 0.317±0.008 0.084±0.011 7.157±0.312 0.941±0.037 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		11	15	630 ± 0 .	0.329 ± 0.005	030±0.0	531±0.	211 ± 0 .	365 ± 0	028±	534±	0	154±
		型十進 世	22	0.512 ± 0.014	0.37 ± 0.008	084+	157 ± 0 .	941±0.	301 ± 0 .	0.874 ± 0.043	0.431 ± 0.033	10	0.126 ± 0.004
		的外尾第一群	98	0.382 ± 0.026	0.252 ± 0.023	052 ± 0.0	106±0,	160±0,	+0	+0.	056	0.010 ± 0.001	107±
製師の課 42 0.642±0.071 0.310±0.010 0.070±0.008 5.529±0.354 0.498±0.051 阿藤第一群 39 1.999±0.212 0.664±0.061 0.067±0.011 1.862±0.388 0.476±0.060 阿藤第二群 44 1.045±0.171 0.547±0.064 0.056±0.008 2.822±0.410 0.312±0.048 報 池 42 0.678±0.057 0.458±0.020 0.062±0.005 3.457±0.206 0.194±0.018 料 1Gー 1 55 1.297±0.021 0.266±0.006 0.058±0.007 0.756±0.015		临外尾第二群	29	0.590±0.072	0.393 ± 0.020	077 ± 0.0	396±0.	330 ± 0 .	078 ± 0	675	0.096 ± 0.017	0.024 ± 0.006	219±
<u>阿藤</u> 第一群 39 1.999±0.212 0.664±0.061 0.067±0.011 1.862±0.368 0.476±0.06 <u>阿藤</u> 第二群 44 1.045±0.171 0.547±0.064 0.056±0.008 2.822±0.410 0.312±0.04 瀬 池 42 0.678±0.057 0.458±0.020 0.062±0.005 3.457±0.206 0.194±0.01 料 1.G-1 ⇒ 56 1.327±0.021 0.265±0.006 0.058±0.006 2.457±0.007 0.758±0.01			42		0.310 ± 0.010	070 ± 0.0	529±0.	498±0,	$0.81 \pm 0.$	656 ± 0.0	200 ± 0 .	0.022 ± 0.006	
阿藤等二群 44 1.045±0.171 0.547±0.064 0.056±0.008 2.822±0.410 0.312±0.04			39	1,999±0,212	664±	067	862 ± 0 .	476 ± 0		1.647±0.181	0.067 ± 0.014	0.067 ± 0.010	0.602 ± 0.086
42 0.678±0.057 0.458±0.020 0.062±0.005 3.457±0.206 0.194±0.01	電水配	阿康等一群	44		547+	056 ± 0.0	822±	+0	+0	108 ± 0.1	046	0.036 ± 0.006	302±
55 1 327+0 021 0 266+0 006 0 058+0 006 2 817+0 074 0 756+0 01		 规	42	-	458±	$062 \pm 0,00$	$.457 \pm 0$	+1	0	0.728 ± 0.054	0.025 ± 0.010	0.019 ± 0.002	0, 185±0, 015
1. 021 - 0. 021 0. 200 - 0. 000 0. 000 2. 011 - 0. 014 0. 100 - 0. 01	學學試料	-	20	1, 327 \pm 0, 021	0.256 ± 0.006	0.058 ± 0.006	2.817 ± 0.074	0.756 ± 0.015	0.183±0.024	0,762±0,033	0.078 ± 0.014	0.036 ± 0.003	0,448±0,011

麻畑原石産地は岡山理科大学白石純氏発見の原産地(近日正式発表予定) 平均道士標準偏差値、 *:黒曜石様ガラス質安山岩 - a): Ando.A. Kurasawa.H., Ohmori.T. & Takeda.E.(1974). 1974 compilation of data on the GSJ geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal Vol.8 175-192.

第3表-3 原石産地不明の組成の似た遺物で作られた遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

		小茶,					11	±				
河路		個数	K/Ca	Tilca	Mn/Sr	Pe/Sr	1	Y/Sr	75/55	Nb/Sr	ALZCa	2
北海道	頭無川遺物群	35			0.094±0.012	5, 376 ± 0, 721	170±0.01	103	874±0, 101	0.018±0.011	0	0. 156±0. 090
	十二年 日本	22		0.307 ± 0.005	0.177	55	〒990		557 ± 0, 030	016±		102 ± 0.0
	下集2群	38			0.109±	S	184±		906 ± 0.035	024±	1610	±191
上類	一,	200	0.098 ± 0.002	0,0	0, 141±0, 012	8, 952±0, 285	032		419±0.019	011 ± 0, 00	014	0.120 ± 0.003
	十.荣.4 BF	200	0. 134±0.002	0	0.128=0.012	- 1	±260		612 ± 0, 023	017±	012±0.	0.093 ± 0.002
	F - No. 1364	400	0.143±0.002	3 0	0.114±0.010	8	091 ± 0, 00		566±0.029	016±0,00	012	0.117±0.003
五川直	河口NO. 146年	200	0. ZU4 ± 0. OUZ 0. 476 ± 0. OTB	0.310±0.004	0. 116±0, 009	5 220+0 158	1461	0, 105±0, 010	0.026	015+	015±0.	0. 130±0, 003
17111260	#FATANO 261 GHEY	0 10	0.632 +0.032	d	0.021-0.033	32	1001		0.00 = 0.000	0.01 ± 0.00	020	0.020-0.073
	野谷No 271 他整	38	0 407+0 010		0.040+0.005	5 8	URG		+0.04	0.03 ± 0.00	220	0.213-0.010
77	野軍No. 282他群	2 22	0.799±0.009	0	0.050±0.005	400	221+	1770	1, 213 ±0, 039	037	026±0	0.240 ±0.009
が出る	野在No. 289他群	32	3,515±0,134	-:	0. 149 ± 0.023	320 ±	617	-	±0.067	158 ± 0, 02	167±0.01	2,525±0,081
	野谷No. 262群	40	0.384±0.004	0	0,057±0,005	2, 356±0, 068	0, 102 ± 0, 007	-	651 ± 0.022	+0.00	17±0.	0.161 ± 0.004
26 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6	F) (#No. 2956#	35	3.584±0.178	0.077±0.058	0.075±0.016	9	¥ 2		118±0.053	2	183 ± 0, 01	2, 989 ± 0, 159
BF Pullsty.	FFNG. TRド	35	0.334+0.004	0	0.067+0.009	3 895+0 150	080	0 044+0 007	0.028	100	0.011±0.001	0, 088±0, 002 0 147±0 010
愛知県	Ш	35	1,016±0,022	0.582±0.012	D. 043±0, 005	87+	477	المراك	722±0.058	058	032	0.557 ± 0.021
	fijthNo. 68¥	30	0. Z36±0, 003	0.189 ± 0.003		∓999	194±0.01	0.063±0.011	588±0.019	010	0.5	0. 127±0. 002
	可出No. 49群	99	0.310 ± 0.003			734±	228	0.059 ± 0.010	610±0.021	110	017	0.147 ± 0.002
	□ 41.No. 625等	30	0.333±0.003	0.229±0.003	0.066±0.004	3	212 ± 0.01	T990	618±0.019	010	017±	0.142 ± 0.002
	414 INO. 828#	30	0, 340±0, 003	0, 226±0, 003		190	208±0.01	1690	628±0.015	9	1910	138±
1-26-17	T-71.10. 866	30	2. 638 ± 0. 057	0.949±0.026		336±	624 ± 0.01	0, 139 ± 0, 027	425±0.050	1650	097 ± 0, 03	1.903±0.055
N N N N	TELNO, 696#	30	0. b00 ± 0. 005	0,28/±0,004		7117	0.353±0.014	0.048±0.012	088 ± 0, 022	1 220	1 4 5 6	7997
	東序No. 16群	3 23	0.361+0.004			+50	238+0 10	0.044 ± 0.010	684+0 025	1000	1 1 1 1	0.170+0.002
		33	0, 372±0, 004	0,250±0,004	0.049 ±0.007	¥77	241	0.056±0.009	675±0.024	023 ± 0, 00	0 0	176+
	栗牛間谷No. 98群	48	0.421 ± 0.009	0.227 ± 0.005		\$58±	217 ± 0.01	0,067±0,009	0,025	026±0.00	015±0.00	129 ±
	粟生間台No, T5群	48	0.240 ± 0.002	ď		±901	160	0.059 ± 0.009	d	0.022 ± 0.008	018±0.00	123 ± 0
五年刊	中田No. 117排	48	0, 378±0, 005	0.	0.071 ±0.007	4,592±0,093	216±0.00	-	0.611±0.024	+11	∓610	134±
和歌	EXTEND, BALLAGE	90	00 700 TO TO 200		30	100	647±0.0	215 ±0.	272±0.	0, 120±0, 023	276±0.03	203 ± 0.
	PECTINO 28:10-26	48	23.182±1,973	-	o c	3	451 49E	0, 444±0, 070	50	0.178±0.025	500 ± 0.06	731 ± 0,
10000	评做 2 No. 2群	48	0.491±0.008	0.524 ± 0.009	0.040±0	778+	098+0	1 -	679+0	0 066+0 006	200	222+0
SEPHX97	筆畝2 No.3群	48	0.324 ± 0.007	0	0.048±0.	±698	068±0.(0.051±0.006	622±	0.048+0.008	021	0, 152 ± 0, 006
	平田遺物群	20	0.211±0.006			108十	098	0,071±0,012	552 ± 0	0.021±0.008	013±0.0	118+
		44	3.461±0.177		0, 158±0, 041	9	660	0.268±0.036	124±0, 106	0.157±0.035	116+	1, 201 ± 0, 085
	FILMO Sillabella	48	0.178+0.002	0 284 +0 003	0.030±0.010	1484	88	0.004-0.000	170	0 013+0 005	014 ± 0.	0.102 ± 0.005
	下山No, 川遺物群	48	0, 161 ± 0, 004	o	0.090+0.008	8	076	0.060±0.008	468±0.019	014		0.087±0.003
島根県	東船上運物群	48	4.547 ± 0.269	o	0.168±0.048	523 ±	447	+1	278±3,081	1, 094±0, 249	114±	1,029 \pm 0,047
	川平No. 2.資物群群	48	0.745 ± 0.012	o'	0.017 ± 0.002	8	104	0.005±0.005	276±0,025	0.019±0.004		3=
	图/原有产群	48	8, 728 ± 1, 974		0. 242 ± 0. 087	25. 324 ± 3. 676	332±0.00	+11-	833 ± 0, 105	040		952
	加大学台格群	90,00	0.020±0.003		0.319±0.027		0.053±0.016	0.151±0.017	517 ± 0, 051	022 ± 0, 01	0.007 ± 0.001	12
	※UAWNO, 14件	40	0.265+0.095	0.929 - 0.084	0.108±0.014	7. (21 ± 0, 024 9. 959 ± 0. 089	0.462±0.036	0, 101 ± 0, 022	134 ± 0, 046	0.026±0.011	0.0M9±0.007	200
遊遊遊	は一大道を開	202	3 129 ± 0 089		0 185+0 098	8 8	1 168 +0 046	0.010-0.000	177+0 082	0.003±0.002	0.063-0.003	1 445+0 053
* I I I I	六ツ目遺物群	98	0.307±0.004	1	0.067±0.005	4, 736±0, 096	0.235±0.010	0.058±0.014	840±0,023	0. 030±0.013	0.016±0.005	0. 133 ± 0. 004
EL/138	権の沿遺物群	09	0.684 ± 0.012	ď	0.066 ± 0.012	$4,139\pm0,128$	0.429 ± 0.019	0.077 ± 0.022	178±0.040	0.058 ± 0.013	0.025±0.002	0.262 ± 0.007
局知順	松ノ木道物群	37	0.610 ± 0.017	0.223 ± 0.004	0.797 ± 0.005	4,528±0,120	0, 325±0, 016	0.063±0.017	±0.028	0.019±0,014	0.024±0.002	0, 193 ± 0, 006

400
July
和口
皿
441
釈
用作
11
-
四
4
34
1
の平均
0
士
素
MJ/
IK
6
45.4
为群
13
-A-V-
鲗
41
-
£
10
- 100
4
で作
で作
物で作
豊物で作
遺物で作
た遺物で作
以た遺物で作
)似た遺物で作
の似た遺物で作
式の似た遺物で作
国成の似た遺物で作
組成の似た遺物で作
の組成の似た遺物で作
目の組成の似た遺物で作
明の組成の似た遺物で作
不明の組成の似た遺物で作
也不明の組成の似た遺物で作
也不明
也不明
5産地不明の組成の似た遺物で作
也不明
原石産地不明
一4 原石産地不明
一4 原石産地不明
一4 原石産地不明
原石産地不明
一4 原石産地不明

-100	24 - 15 544 314	分析					元素	#				
Ų	雌石脂物群石	個数	K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/S	YSr	Zr/Sr	Nb/Sr	AL/Ca	S
	木道No18道物群	48	0,293±0,007	0.237 ± 0.003	0.050 ± 0.006	3.976 ± 0.127	0.164 ± 0.0	0,061±0,010	0.658 ± 0.026	0.024 ± 0.008	0.017 ± 0.002	0, 127
	水道N-19道物群	48	0.440 ± 0.085	2.190 ± 0.242	2 0.026±0.005	0.671 ± 0.068	0.012 ± 0.0	0.057 ± 0.005	0.913 ± 0.047 0.050 ± 0.008 (0.050 ± 0.008	008 0, 339 ± 0, 037 4, 867 ± 0, 543	4,867
	久木野10遺物群		0.397 ± 0.006	0.297 ± 0.00	0.071 ± 0.009	3.723 ± 0.129	 181±0. 	0.048±0.012	0.397 ± 0.029	0.071 ± 0.010	0.021 ± 0.002	0.189±
- 277 AAG	2人大野12週物群		0.687 ± 0.010	0.369 ± 0.00	0,046±0,005	2.596 ± 0.074	$0.132 \pm 0.$	033 ± 0,010	0.995 ± 0.027	0.056 ± 0.011	0.033 ± 0.003	0.284
STATE OF THE STATE	7、久木野[7]宣物群		37, 546 ± 7, 947	6.872 \pm 1.51	0.055 ± 0.024	12, $163 \pm 1, 242$	1.718±0.	0.319±0.060	L. 898±0, 167	0.211 ± 0.052	1.490 ± 0.316	16, 795±
	久人野26世物群		20, 336±1, 582	7,598 \pm 0,61	0,046±0,015	7,914±0,477	1.359±0.	1,396±0,064	3,562±0,227	0.050 ± 0.029	0.803 ± 0.098	8, 469=
	久木野44置物群		0,766±0,067	0.513 ± 0.02	0.049 ± 0.019	$2,430\pm0,163$	0.334 ± 0.0	0.418 ± 0.052	0.739 ± 0.083	0.059 ± 0.036	0.080 ± 0.016	4.625
	久木野45遺物群		1.207 ± 0.070	1, $243 \pm 0,056$	0.022 ± 0.009	1, $545\pm0,063$	0. 152 ± 0 .	3,080±0,015	0.493 ± 0.039	0.030 ± 0.012	0.160 ± 0.020	7.566±
心・大	长温路 FILING 5. No.1	No.11 BY	中ノ沖濃路 六ツ日	/ 34 装牌	温器 祖口温器	一 指罪 二色母	FNo 269	要年間公道站	本治 3 温路 7	さ付か、御路 一下	平 温路 家の	· 別間別

屋原産地からのサヌカイト原石66個の分類結果	他原産地および他康石群との関係	淡路鳥、岸柘田1、和歌山に出現	白峰群に一致	法印谷群に一般	国分寺群に一致	選先与群二一致	金川東群に一致	和泉間に一致	不用(アプの個子群のも属されて)
から	法()	80%	2 3	o.	00	9	2	co	25
型型			***						
票面	数	題(~		10	-		25.5	100
題	E	03	04		-				
驰		2++- Hi-C							
第4表	原石群名	記题法	眠						

イト原石72個の分類結果 X #6 ・ 亜 製 田 歴 ル の の 和自

172個の分	autz CO
岸和田原産地からのサヌカイト原石72個の分	地原石群との関係 和歌山に出現 " " 「語にも属さない
いらのサス	西および他等 単和田、和 - * * * * * * * * * * * * * * * * * * *
原産地カ	高層的 ※認為、 一口輪群に、 上口語 社口分割 後日承期 会日承期
岸和田	12 12 12 13 14 15 15 15 15 15 15 15
和泉・	金 2 2 2 2 2 2 2 2 3 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9
第5表	原石牌名 古屋第一群 岩屋第二群

剥片の元素比分析結果 北田遺跡出土サヌカイト製石器、 第7表 和歌山市梅原原産地からのサヌカイト原石21個の分類結果 8年9

(2) (中和田、和歌山に出現 書号 K/Ca Ti/Ca Ma/Sr Fe/Sr Bb/Sr V/Sr Zr/Sr Nb/Sr Al/Ca Si/Ca
東石群にも属さない)
専石群にも属さない)
84870 0.272 0.223 0.069 4.368 0.208 0.060 0.666 0.009 0.017 0.126 84871 0.444 0.256 0.061 3.362 0.286 0.068 1.009 0.017 0.019 0.174 JG-1 1.289 0.292 0.070 2.717 0.720 0.261 0.793 0.066 0.030 0.419
34871 0.444 0.256 0.061 3.363 0.286 0.068 1.009 0.017 0.019 0.174 0.174 0.720 0.261 0.793 0.066 0.030 0.419
JG-1 1, 289 0, 292 0, 070 2, 717 0, 720 0, 261 0, 793 0, 066 0, 030 0, 419

けで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。産地分析で水和層の影響は、軽い元素の分析ほど大きいと考えられるが、影響はほとんど見られない。Ca/K、Ti/Kの両軽元素比量を除いて産地分析を行なった場合と除かずに産地分析を行った場合で同定される原産地に差はない。他の元素比量についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはや、不確実さを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。

今回分析した北田遺跡から出土したサヌカイト製遺物の分析結果を第7表に示した。石器の分析結果 から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするた めK/Caの一変量だけを考えると、分析番号84867 番の遺物はK/Caの値が0.276で、二上山群の「平均 値] ± [標準偏差値] は、0.288 ±0.010 であるから、遺物と原石群の差を標準偏差値 (σ) を基準に して考えると遺物は原石群から1.2 σ離れている。ところで二上山群の産地から100ヶの原石を採って きて分析すると、平均値から±1.2σのずれより大きいものが23ヶある。すなわち、この遺物が、二上 山群の原石から作られていたと仮定しても、 1.2σ 以上離れる確率は23%であると言える。だから、二 上山群の平均値から1.2σしか離れていないときには、この遺物が二上山群の原石から作られたもので ないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を金山東群に比較すると、金山東群の平均値からの隔 たりは、約17 σ である。これを確率の言葉で表現すると、金山東群の原石を採ってきて分析したとき、 平均値から17g以上離れている確率は、千兆の百倍分の一であると言える。このように、千兆の百倍個 に一個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物 は、金山東群の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、 「この遺物は二上山群に23%の確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たしていることから二上山群の 原石が使用されいると同定され、さらに金山東群に対しては千兆分の一%の低い確率で帰属され、信頼 限界の0.1%に満たないことから金山東産原石でないと同定される」。遺物が二上山群と一致したからと 言っても、遺物が二上山産地から採取された証拠はなく、分析している試料は原石でなく遺物でさらに 分析誤差が大きくなる不定形(非破壊分析)であることから、他の産地に一致しないとは言えない、同 種岩石の中での分類である以上、他の産地にも一致する可能性は推測される。即ちある産地(二上山群) に一致し必要条件を満たしたと言っても一致した産地の原石とは限らないために、帰属確率による判断 を第3表の132個すべての原石群について行ない、十分条件である低い確率で帰属された原石群を消し ていくことにより、はじめて二上山産地の石材のみが使用されていると判定される。実際はK/Caといっ た唯1ヶの変量だけでなく、前述した8ヶの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならな らい。例えばA原産地のA群で、Ca元素とRb元素との間に相関があり、Caの量を計ればRbの量は分析 しなくても分かるようなときは、A群の石材で作られた遺物であれば、A群と比較したとき、Ca量が 一致すれば当然Rb量も一致するはずである。したがって、もしRb量だけが少しずれている場合には、 この試料はA群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたの が相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングのT2 乗検定 である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて、産地を同定する4.51。産地の同定結果 は1個の遺物に対して、サヌカイト製では132個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行っ た遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上『記入』を省 略しているのみで、実際に計算しているため、省略産地の可能性が非常に低いことを確認したという重 要な意味を含んでいる、すなわち、二上山群の原石と判定された遺物について、香川県金山原石とか佐

貿県多久産、北海道旭山の原石の可能性を考える必要がない結果で、高い確率で同定された産地のみの結果を第8表に記入した。原石群を作った原石試料は直径3cm以上であるが、多数の試料を処理するために、小さな遺物試料の分析に多くの時間をかけられない事情があり、短時間で測定を打ち切る。このため、得られた遺物の測定値には、大きな誤差範囲が含まれ、ときには、原石群の元素組成のバラツキの範囲を越て大きくなる。したがって、小さな遺物の産地推定を行なったときに、判定の信頼限界としている0.1%に達しない確率を示す場合が比較的多くみられる。原石産地(確率)の欄にマハラノビスの距離D2乗の値で記した遺物については、判定の信頼限界としている0.1%の確率に達しなかった遺物でこのD2乗の値が原石群の中で最も小さなD2乗値である。この値が小さい程、遺物の元素組成はその原石群の組成と似ているといえるため、推定確率は低いが、そこの原石産地と考えてほゞ間違いないと判断されたものである。

今回分析した北田遺跡出土の5個の中で4個が二上山群に同定され、また分析番号84871番は蓮光寺 ・国分寺産原石と同定された。二上山、蓮光寺・国分寺群に同定されたサヌカイト製遺物の原材産地は、 二上山、蓮光寺・国分寺産地の一カ所でなく二上山と同じ組成の原石は和泉市の和泉・岸和田原産地か ら、蓮光寺・国分寺は岩屋産地からも採取されるために、複数の原産地を考慮しなければならない。こ れら複数の産地から客観的な基準により一カ所の産地を推測するには、各産地で各群の原石が採取され る確率(第5表、6表、7表)から、遺跡使用原石が各産地で採取される期待値を求めて判定する。北 田遺跡の二上山産原石を、和泉・岸和田原産地 (第6表) から採取する期待値は0.06 (6%) を4回累 乗した確率で0.00001の低い確率になり、蓮光寺・国分寺産が岩屋原産地から採取される確率は8%(0. 08) となる。和泉・岸和田原産地から採取された可能性が否定され、また岩屋産地の8%の確率は遺跡 の遺物12個に対して1個が現れる確率で、分析した5個の中に現れるということは、香川県蓮光寺・国 分寺原産地から伝播した可能性が少し大きい程度と思われる。北田遺跡は淡路島南部に位置し、中部地 域の西路山地区および大崩地区、また、緑町においてサヌカイト原石が産出しているが、これら産地か ら、二上山、蓮光寺・国分寺産原石の組成に一致する原石は産出していないので、遺跡から比較的近い これらの産地の原石は使用しなかった可能性が考えられる。搬入された原石の量に比例してその原産地 地方と交易が活発であると推測すると、北田遺跡は二上山地域と交易が活発で、香川県蓮光寺・国分寺 地域との交流もあったと推測しても産地分析の結果と矛盾しない。

第8表 北田遺跡出土安山岩製石器・剥片の産地推定

分析 番号	報告番号	実測 番号	出土地点	時 期	産地推定 (確率)	判定
84867	2	10	竪穴住居址 SB-01 埋土	弥生時代中期(N様式)	二上山(16%)	二上山
84868	3	18-2	竪穴住居址 SB-01 埋土	弥生時代中期(N様式)	二上山 (74%)	二上山
84869	4	22-1	竪穴住居址 SB-01 PIT 3	弥生時代中期(IV様式)	二上山(3%)	二上山
84870	5	22-2	竪穴住居址 SB-01 PIT 3	弥生時代中期(IV様式)	二上山 (50%)	二上山
84871	8	22-3	竪穴住居址 SB-01 PIT 3	弥生時代中期(N様式)	蓮光寺(28%), 国分寺(17%), 岩屋第2群(0,4%)	蓮光寺·国分寺

注意:近年産地分析を行う所が多くなりましたが、判定根拠が曖昧にも関わらず結果のみを報告される場合があります。本報告では日本における各遺跡の産地分析の判定基準を一定にして、産地分析を行っていますが、判定基準の異なる研究方法(土器様式の基準も研究方法で異なるように)にも関わらず、似た産地名のために同じ結果のように思われるが、全く関係(相互チェックなし)ありません。本研究結果に連続させるには本研究法で再分析が必要です。本報告の分析結果を考古学資料とする場合には常に同じ基準で判定されている結果で古代交流圏などを考察をする必要があります。

第4章 自然科学的調查

参考文献

- 1) 藁科哲男・東村武信 (1975), 蛍光 X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定 (Ⅱ)。考古学 と自然科学, &61-69
- 2) 藁科哲男·東村武信・鎌木義昌 (1977), (1978), 蛍光 X 線分析法によるサヌカイト石器の原産 地推定 (Ⅲ)。(Ⅳ)。考古学と自然科学, 10,11:53-81:33-47
- 3) 藁科哲男・東村武信 (1983), 石器原材の産地分析。考古学と自然科学, 16:59-89
- 4) 東村武信(1976), 産地推定における統計的手法。考古学と自然科学, 9.77-90
- 5) 東村武信 (1980), 考古学と物理化学。学生社

第5章 ま と め

第1節 弥生遺跡の年代と性格及びその位置づけ

今回の調査は、北田遺跡の弥生時代集落本体と考えられる南西部域約251㎡を対象とした。その結果、弥生時代中期後半の竪穴住居跡を1棟確認した。また、周辺のほ場整備事業に伴う調査では平安時代末から室町時代にかけての遺構・遺物も検出している。間違いなく、この遺跡は中世を中心とする複合遺跡である。

ここでは、弥生遺跡の年代と性格及びその位置づけを記して、まとめにかえたい。

まず、竪穴住居跡SH01の築造・廃棄の時期を検討してみよう。

竪穴住居跡の出土遺物を見ると、1から5の広口壺が古く畿内第Ⅲ様式の新段階から第Ⅳ様式に置く ことができる。胴部を横描き直線文と波状文で飾り、横描き文様の最下段に列点文を持つものもある。 7・8の甕、9から10の鉢もしくは高杯の杯部もこの時期に比定できる。中央土坑出土の土器8・11も、 第Ⅳ様式に属するものである。

問題は6の鉢と17の壺底部である。これらは第V様式の特徴を持つ土器であり、鉢は庄内式と見てもおかしくない形態である。混入で片づければ気にすることはないが、特に6は床面上の出土として取り上げているのである。さらに、住居跡上面の遺物包含層中の土器にも、中期後半と19・24等の後期のものが同じように含まれている。

住居跡の遺構は、周壁溝・中央土坑も含め一切切り合い関係はなく、拡張も認められない。柱穴は11本であり、10本を主柱穴として捉えた。仮に、柱穴1・3・5・7・9・11の6本柱で建上げれば、残りの2・4・6・7・9・10の6本で建替えられないこともないが、それでも、第V様式の時期まで継続したとは考えられない。

となれば、中期後半の住居なのか、後期のものなのかを決めておかなければならない。

住居の平面形態は、ほぼ円形の大型住居である。中央土坑は楕円形を呈し底までの深さは浅く、屋内 溝や屋外溝と呼ばれる所調排水溝は伴っていない。これらの特徴は、中期後半と決定するのに有利な要 素である。しかし、淡路地域では円形住居が西淡町の谷町筋遺跡・鈩田遺跡を始め、洲本市の大森谷遺 跡・寺中遺跡・下内膳遺跡等で後期まで残り、後期の年代に大型のものが多いのも事実なのである。ま た、出土遺跡の石器についても、前記遺跡では明らかに後期まで残るようであり、これも決め手になり 得ないのである。

結論としては、中央土坑出土の土器とこの土坑の深さが浅いこと、そして土坑に切り合いがないことを優先し、住居の築造及び廃棄の時期は中期後半としておきたい。後期の土器については、住居検出時に埋土内の遺構があったのを見落としていた可能性も考えられる。なお、隣接するほ場整備の調査では、後期の土器が出土しているものの遺構の発見はなかった。

次に集落構造を見ると、中期後半頃から新しく出現した拠点とならない集落では、洲本市寺中遺跡や 森遺跡のように竪穴住居2・3棟と掘立柱建物1・2棟で構成されることが多い。

第5章 ま と め

北田遺跡も、調査区内では竪穴住居跡を一棟発見しただけであるが、周辺の微地形を見ると調査区外 北東に山麓から張り出す高台があり、そこから西へ徐々に低くなっている。この高台(現集落内)に、 竪穴住居と掘立柱建物がもう1~2棟程度存在する集落なのであろう。生産の場である水田は、西側の 低地平野や谷部の低地が想定できよう。

後期にも、土器が存在することから、同規模の集落は存在していたと考えるべきであろう。しかし、 古墳時代に入る段階(庄内式)をもってこの村は、突然廃絶してしまうようである。おそらく鴨路川の 洪水がその原因と考えられ、人々は三原平野側の母村のある段丘上へ移動したのであろう。

再び、この地に村が登場するのは第5章第2節のとおり、平安時代末なのである。

参考文献

- 1. 吉織 雅仁編 『森遺跡』 兵庫県文化財調査報告第55冊 兵庫県教育委員会 1988年
- 2. 吉織 雅仁編 『寺中遺跡』 兵庫県文化財調査報告第64冊 兵庫県教育委員会 1989年
- 3. 吉織 雅仁編 『谷町筋遺跡』 兵庫県文化財調査報告第73冊 兵庫県教育委員会 1990年
- 4. 吉織 雅仁編 『鈩田跡』 兵庫県文化財調査報告第78冊 兵庫県教育委員会 1990年
- 5. 森岡秀人・寺沢薫編 『弥生土器の様式と編年―近畿Ⅱ―』 1990年
- 6. 山田 清朝編 『下内膳遺跡』 兵庫県文化財調査報告第155冊 兵庫県教育委員会 1996年

第2節 ほ場整備事業に伴う北田遺跡の発掘調査概要

三原郡広域行政事務組合教育委員会 定松 佳重

調査の経緯

本遺跡はは場整備事業に伴って平成4年度に分布調査を行った結果、地形的に遺跡包蔵地の可能性が 高いことが指摘された。そこで、平成6年度に遺跡範囲確認調査を実施し、調査対象地の西部では弥生 時代、東部では平安時代から鎌倉時代と広範囲に遺跡の包蔵が確認された。

この成果を基に、工法上遺構の保存が難しく、遺構に掘削が及ぶ範囲の調査を平成6・7年の2年度 に分けて行うこととなった。

調査の内容

調査は、事業地内を第15図の通り $A \cdot B \cdot C$ からKのII地区に分けて実施した。このうち、遺構・遺物の顕著な5地区について概要を報告する。

【A地区】第16図

耕作土とわずかな堆積土を削除した段階で、直径約1mの土坑2基と建物を構成すると思われる直径 約50cmの柱穴4基を検出した。この土坑と柱列は門を構成するかと思われたが、中心線の通りがわずか ながら一致せず、柱列は西の調査区外に続くと思われる掘立柱建物跡のものと判断した。

遺構からは、瓦器などが出土した。

【C地区】

掘立柱建物跡は確認していないが、土坑より玉縁の白盛碗が出土した。また、遺物包含層からは無文 の白磁碗が出土している (第20図)。

【D地区】第17図

2×3間の掘立柱建物跡を確認した。この建物は四面に庇を持ち、西面を除く3方に雨落ち溝と思われる浅い溝が巡ることが確認された。おそらく西面にも巡っていたと思われるが、調査区外になるため確認できていない。また、東面する東南隅が膨らんでいることから、ここに出入り口があったと思われる。

【 I 地区】第18図

遺構面を2面確認した。第1遺構面では水溜遺構や溝・掘立柱建物、第2遺構面では柱穴や焼土坑を 検出した。掘立柱建物跡は2棟確認した。建物2棟の方向は一致しているが、あまりにも近接している ため時間差があると思われる。しかし、出土土器からそれほど大きくはないと考えられる。

また、土坑や溝から10種14枚の古銭が出土した。最古は貨泉 (14年初鋳)、最新 は政和通賓 (1111年初鋳) である。どの出土遺構からも土師器皿が共伴しないため、 地鎮祭祀ではないと思われる。貨泉は祥符通賓・大観通寳・開元通寳・皇宋通寳と 共に出土しており、中世に埋納されている。

第2遺構面土坑22より、弥生時代後期の土器片が出土した。この遺構からは時期 は不明だが、土師器的要素をもつ甕口縁部も共に出土している。弥生土器 (第21図)



第14図 貨泉

が出土したのはこの調査区のみであるが、明確に弥生時代の遺構は確認していない。

【 1 地区】第19区

この調査区は北から派生する山との変換地点にあたり、標高37mを測る緩斜面である。掘立柱建物跡4棟、柵列、土坑を確認した。掘立柱建物跡1・2・3は方位を同じにしており、掘立柱建物跡1・2の北・西面は柵に囲まれている。また、掘立柱建物跡3の東隅には雨落ち溝が巡っている。

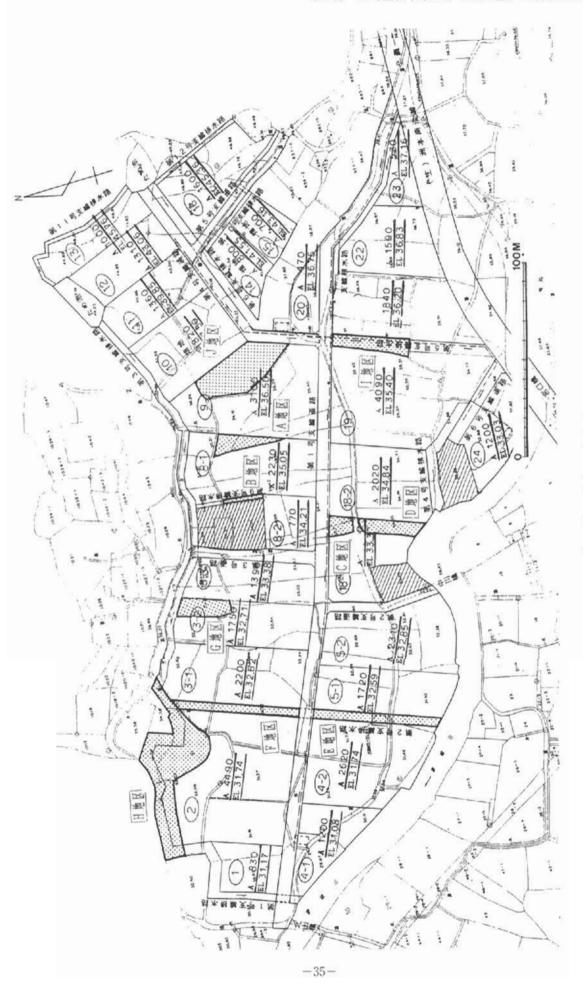
出土遺物 (第22図) には、瓦器碗 (11・12) や瓦器小皿 (13~15)、片切彫花文が施された青磁碗 (16) が出土した。(17) は灯明皿として使用されていたらしく、内面と口縁部の一部が黒変している。

[まとめ]

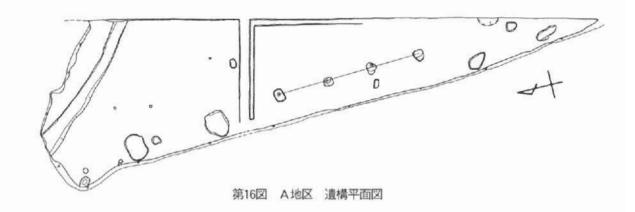
北田遺跡は全域に平安時代末〜室町時代、そして南東部に弥生時代後期の遺跡が包蔵されていることが判明した。

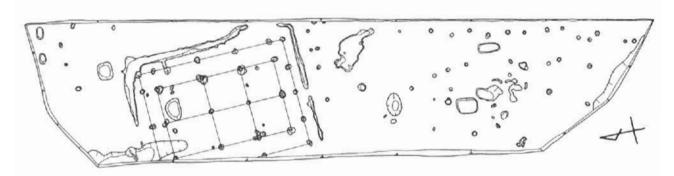
弥生土器の出土したI地区には浅い谷が埋没しており、この谷の北側に中世遺跡が展開する。確認調査時に西部で古い様相の土器が出土していること、今回の調査で遺構は確認されなかったが南東部で弥生土器が出土したことから、南側の鴨路川の開析によってできた段丘縁辺に弥生遺跡が立地することが推測される。このような遺跡立地状況は山を越えた北に位置する河内遺跡と同様である。河内遺跡は谷を西流する本庄川中流右岸に立地する、弥生時代後期の遺跡であり、幅の狭い谷を蛇行する本庄川によって出来た段丘縁辺に竪穴住居跡を確認している。

また、掘立柱建物跡の検出状況からは、室町期が北田遺跡の最盛期であったことが推定できる。鉄滓 や炭・焼土を持つ土坑を確認しており、鞴・羽口は出土していないが鍛冶炉があったことは間違いなく、 中世村落内における分業態勢がかいま見られる遺跡である。

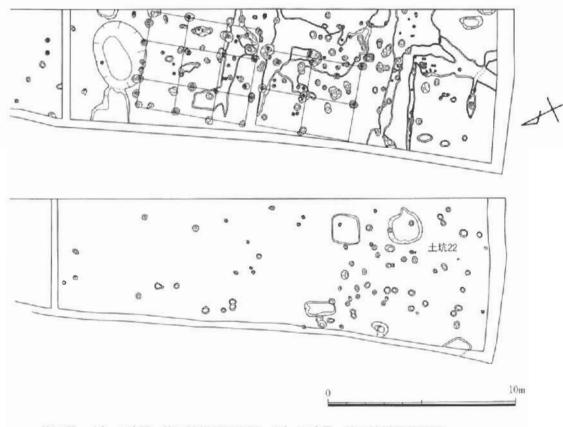


第15図 調査区設定図

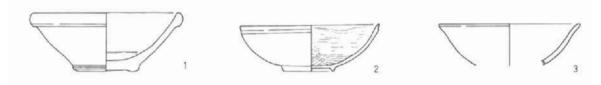




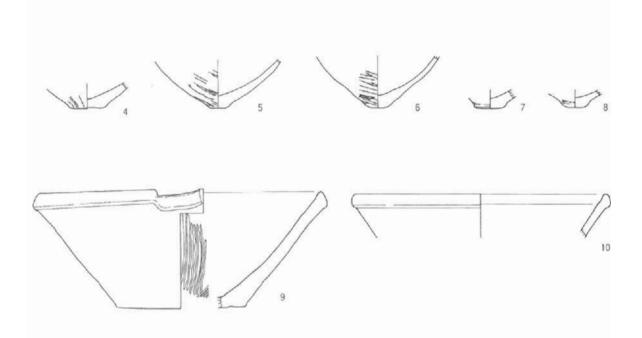
第17図 D地区 遺構平面図



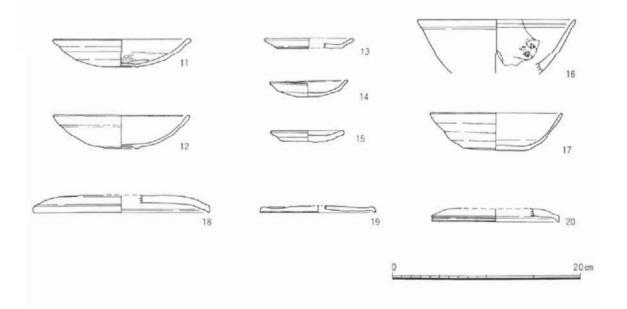
第18図 上) | 地区 第1遺構面平面図・下) | 地区 第2遺構面平面図



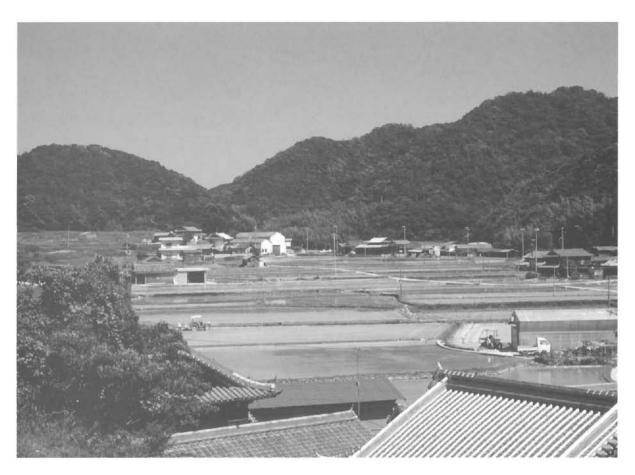
第20図 C地区出土土器 (1·2 遺構出土 3 包含層)



第21図 | 地区出土土器 (4~6 第2遺構面土坑22 7~10 包含層)



写 真 図 版



調査地区遠景(西から)



調査地区近景(西から)



調査区全景(西から)



竪穴住居跡(SH01)全景(東から)



竪穴住居跡(SH01)検出状況(南西から)



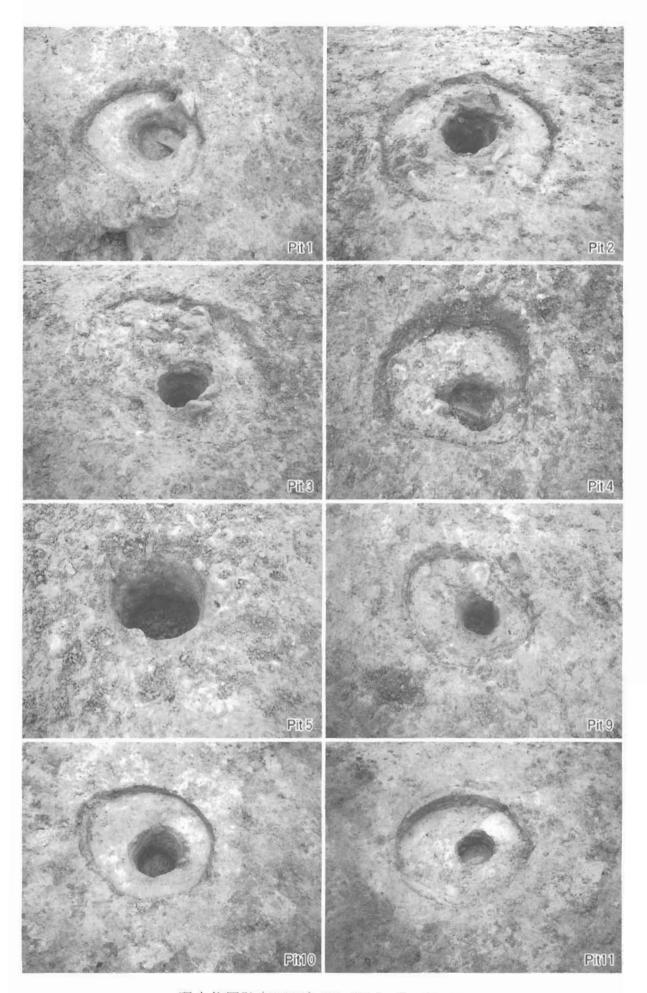
竪穴住居跡(SH01)完掘状況(南西から)



竪穴住居跡(SH01)中央土坑(北から)



竪穴住居跡(SH01)埋土断面及び壁溝(西から)



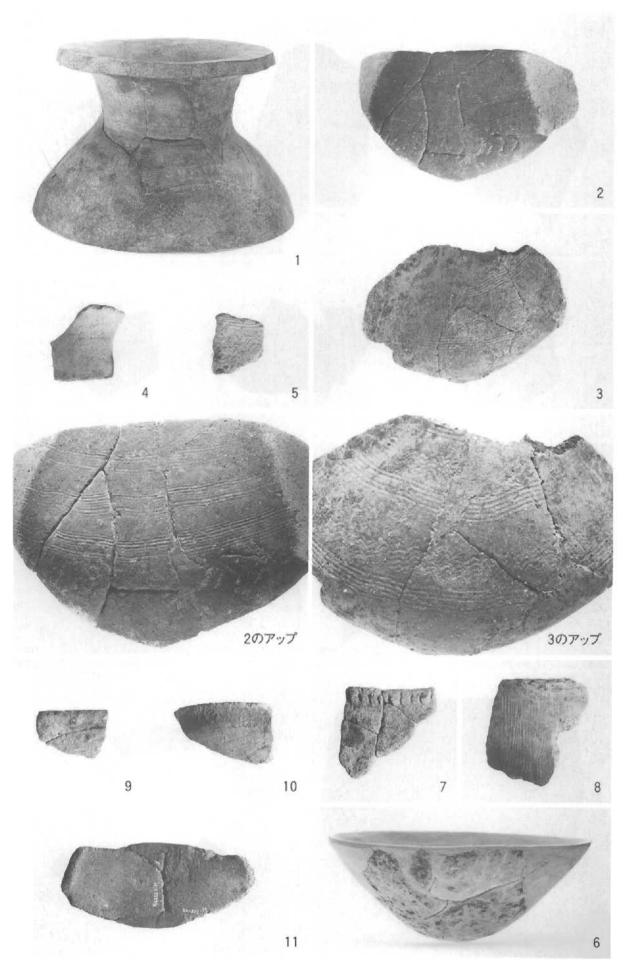
竪穴住居跡(SH01) Pit No.1~5·9~11



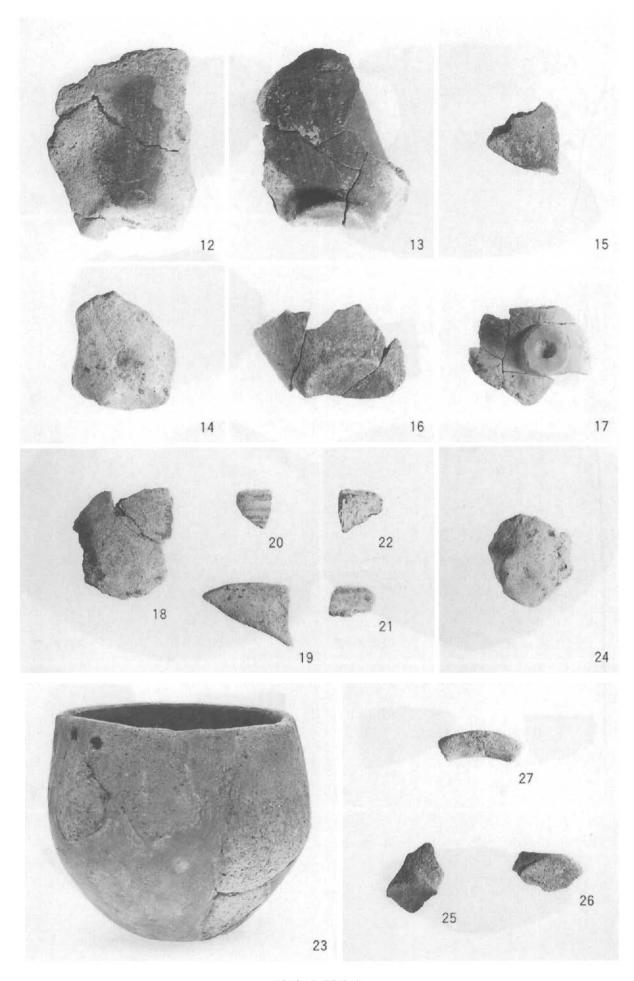
確認調查風景



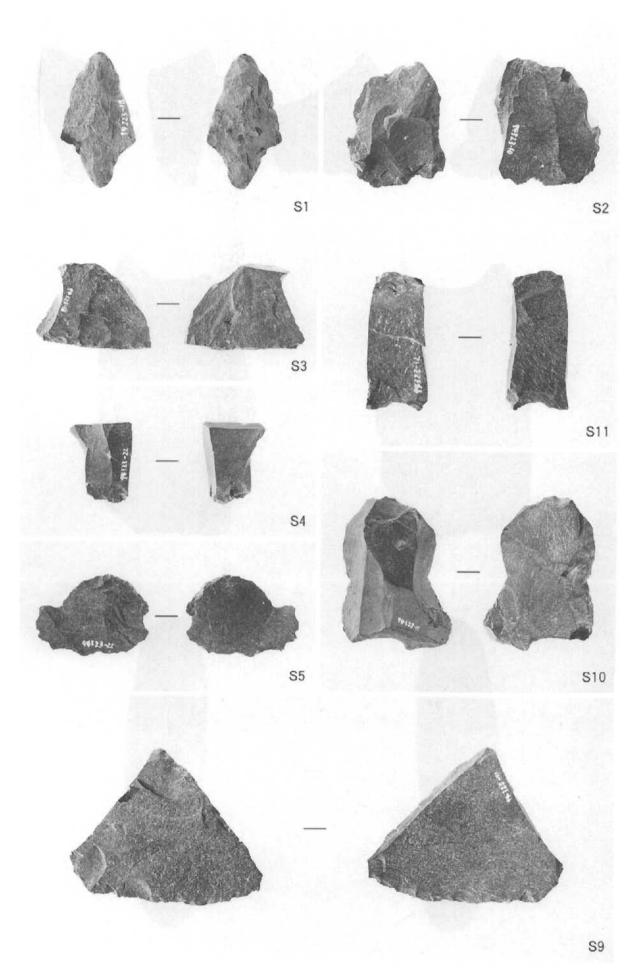
本調查風景



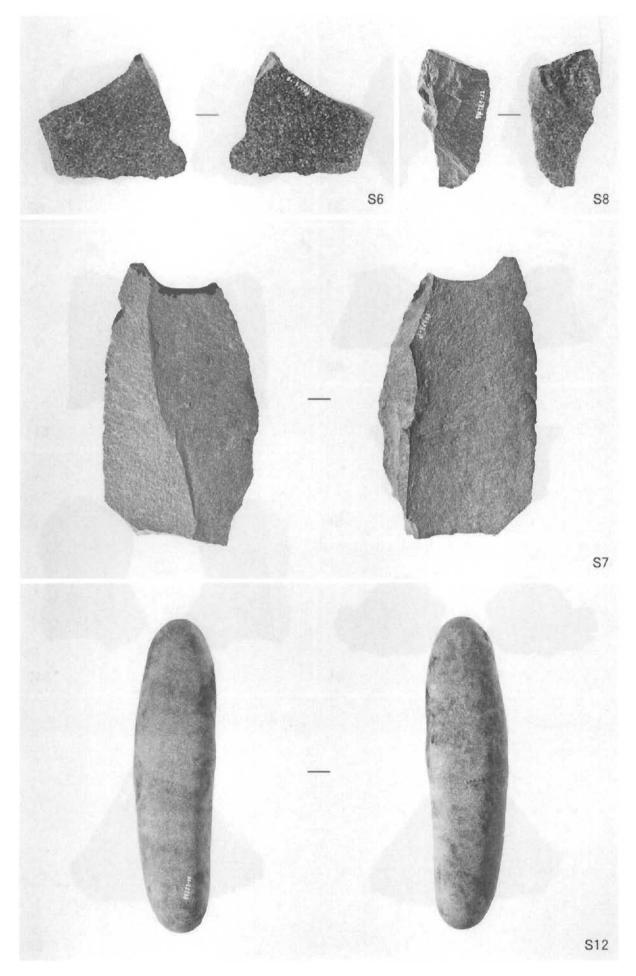
弥生土器(1)



弥生土器(2)



石器(1)



石器(2)

報告書抄録

ふりがな	きたんだいせき											
書 名	北田遺跡											
副 書 名	主要地方道洲本南淡線道路改良事業											
卷												
シリーズ名	兵庫県文化財調査報告											
シリーズ番号	第245冊											
編著者名	大平 茂											
編集機関	兵庫県教育委員会 埋藏文化財調查事務所											
所 在 地	〒652-0032 兵庫県神戸市兵庫区荒田町2丁目1番5号 12 078-531-7011											
発行年月日	西暦 2003年(平成15年)2月28日											
所収遺跡名	所在地	⊐ - ¥		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因				
77] 40, 26, 27, 41		市町村	調査番号	-16 14	木 性	Ded TIT 563 (11)	m ²	per 181, 243 (23)				
北田遺跡	のまりごせる 兵庫県 ・ 本原の ・ 本の ・ 本の ・ 本の ・ 本の ・ 本の ・ 本の ・ 本の ・ 本	287041	940341 (確認調査) 940294 (確認調査)	34度34分 40秒	134度44分 28秒	1994. 10.18 1994. 12.21	18. 0 33. 6	主要地方道 洲本南淡線 道路改良事 業に伴う調				
	阿万東町		940323 (本調査)	3332		1995. 3.22~ 3.24	251.0	查				
所収遺跡名	種別	主な	時 代	主な	遺構	主な	遺物	特記事項				
北田遺跡	計 跡 集落跡 弥生時代 中期~後期		竪穴住居跡		弥生上器 石器							

兵庫県文化財調査報告 第245冊

北 田 遺 跡

---主要地方道洲本南淡線道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書---

2003 (平成15) 年 2 月 28 日 発行

編 集 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

〒652-0032 神戸市兵庫区荒田町2丁目1番5号

TEL 078-531-7011

発 行 兵庫県教育委員会

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

TEL 078-341-7711

印刷 株式会社 トライス

〒650-0016 神戸市中央区橘通1丁目1-9

TEL 078-341-2241